

継続的な改善活動のために！

平成16年度

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書(抜粋)]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 石川 憲一

周知のように、70年代を境目として我が国における大学を始めとする高等教育は大きく変化し、最近に至ると修学年齢世代の約50%が大学・短大へと進学する所謂「大学教育のユニバーサル化現象」が生じてきております。このような状況は一面においては、資源小国である我が国にとって人材と言う『財』を然るべく育成し、国民の知的水準を向上することは望ましいことではありますが、一方では卒業生の質的保証や当該大学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。

金沢工業大学は、開学以来39年の歴史を着実に刻み、今年度を期して従来の工科系単科大学から、工学・環境・情報系より成る3学部15学科体制を有する工科系総合大学に移行いたしました。このような展開の中であって、95年度以来実践して参りました教育改革の成果の内、外部評価の一環として02年度には機械系並びに材料系、03年度には環境系並びに建築系の教育プログラムに対して『日本技術者教育認定機構：JABEE』の認定を受けることが出来ました。これからは、全ての教育プログラムのJABEE認定を目指すと共に、大学基準協会や日本経営品質賞等の視点やメジャーの異なる外部評価を受ける予定であります。そして、03年度に文部科学省が実施いたしました『特色ある大学教育支援プログラム：GP』に「工学設計教育とその課外活動環境」が採択されたことを受けて、更に本学教育改革を推進させるために、96年並びに02～03年に引き続いて在学生・卒業生・教職員の各位に対して8種類のアンケートを依頼致しました。（ただし、今回は企業の人事担当者の方々に対するアンケートは実施致しておりません。）

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である（有）アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生の質的保証や在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、衷心より感謝申し上げる次第であります。

報告書(全文)目次

< 1 >	本調査の全体像	1
< 2 >	調査結果の全体サマリー	9
< 3 >	「授業」に関する満足度	25
< 4 >	「学習環境・学習支援」に関する満足度	47
< 5 >	「学習以外の学生生活」に関する満足度	61
< 6 >	「就職支援」に関する満足度	83
< 7 >	「サービスや機能(利用価値)」に関する満足度	97
< 8 >	相関分析による満足度形成の仕組みの分析	117
< 9 >	新入生(1年次生)アンケートより	133
< 10 >	教職員の KIT-IDEALS に関する行動	147
< 11 >	社会で求められる「人材像」に関して	157
< 12 >	各調査回答者フェース項目(1年次生を除く)	169
< 13 >	フリーアンサー集	181
< 14 >	調査票見本	311

本報告書(抜粋)の右肩にある頁番号は、上記(全文)の目次に対応しているため、
頁が連続していません。

< 1-1 > 調査の目的と概略

調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から「在学生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価、満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- そして、上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようにとりまとめている。
- 本報告書の結果は、単に「学生の満足度を高めるため」だけに役立つわけではなく、「在学生、卒業・修了生、教職員といったKITを取り囲む全ての関係者(ステークホルダー)の満足度を高めるため」に役立て、「KITをより良くするための継続的改善」を進めていくことが最終的な目的となる。

調査方法

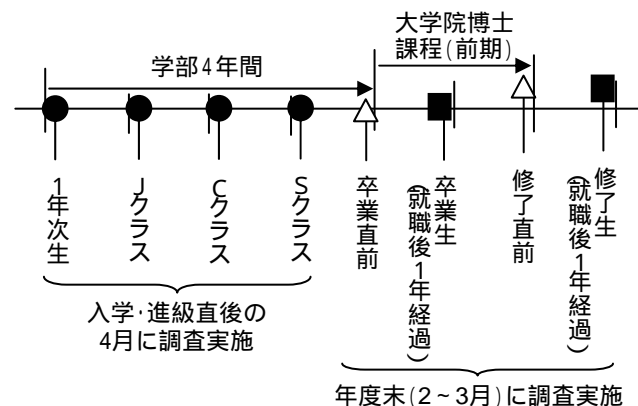
調査時期 平成16年2月～4月 (報告書内では04年と表記)

調査方法 下記のように属性に応じて回収ボックスによる回収と郵送による回収によって実施した。
なお、全て無記名式とした。

回収数 属性別の回収数は下記の通り。
全回収数は5,205サンプル

調査主体 学校法人 金沢工業大学

集計分析 (有)アイ・ポイント



調査対象

対象者	概略 (2004年4月時点)	04年 回収数	03年 回収数	02年 回収数	調査実施方法	備考
1年次生(Fクラス)	入学直後	1,672	724	631	オリエンテーションで配布し、回収ボックスで回収	2003年まではFクラス、2004年からは1年次生と表記
Jクラス	2年進級直後	1,007	106	148	オリエンテーションで配布し、回収ボックスで回収	
Cクラス	3年進級直後	792	49	180	オリエンテーションで配布し、回収ボックスで回収	
Sクラス	4年進級直後	449	106	288	オリエンテーションで配布し、回収ボックスで回収	
卒業・修了直前	2004年3月卒業・修了生	914	976	1,414	研究室単位で配布し、回収ボックスで回収	2004年3月卒業・修了生、グラフでは「卒・修直前」と略
卒業・修了生	2003年3月卒業・修了生	107	163	412	郵送にて配布し、返信用封筒で郵送にて回収	グラフでは「卒・修生」と略。02年は1999～2001年(3年間)、03年は2002年、04年は2003年に就職したOBを調査
教員	在職中の教員	133	143	116	個別に配布して、回収ボックスで回収	
職員	在職中の職員	131	187	実施せず	個別に配布して、回収ボックスで回収	
合計		5,205	2,454	3,189		
(参考) 企業採用担当者	1999～2001年に卒業・修了生が入社した企業	実施せず	実施せず	529	郵送にて配布し、返信用封筒で郵送にて回収	企業アンケートは3年毎に実施する予定

調査内容

各属性別に実施した調査より、今回、主に比較した項目は下記の通り。質問項目の詳細は巻末の「<14> 調査票見本」を参照。

対象者	調査実施年	KIT全体満足度	授業	学習環境 学習支援	学習以外の 学生生活	就職支援	サービスや機能 (利用価値)	自分自身の能力
1年次生(Fクラス)	02年	-	-	-	-	-	-	-
	03年	詳細	-	-	概略	-	-	-
	04年	詳細	-	-	概略	-	-	-
Jクラス	02年	詳細	一部比較	詳細	詳細	-	詳細	-
	03年	詳細	詳細	詳細	詳細	-	詳細	詳細
	04年	詳細	詳細	詳細	詳細	-	詳細	詳細
Cクラス	02年	詳細	一部比較	詳細	詳細	-	詳細	-
	03年	詳細	詳細	詳細	詳細	-	詳細	詳細
	04年	詳細	詳細	詳細	詳細	-	詳細	詳細
Sクラス	02年	詳細	一部比較	詳細	詳細	詳細	詳細	-
	03年	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細
	04年	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細
卒業・修了直前	02年	詳細	-	-	詳細	-	-	-
	03年	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細
	04年	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細	詳細
卒業・修了生	02年	詳細	-	-	詳細	概略	-	-
	03年	詳細	概略	概略	概略	概略	概略	詳細
	04年	詳細	概略	概略	概略	概略	概略	詳細
教員	02年	-	-	-	-	-	-	-
	03年	詳細	概略	概略	概略	概略	概略	詳細
	04年	詳細	概略	概略	概略	概略	概略	詳細
職員	02年	-	-	-	-	-	-	-
	03年	詳細	-	-	概略	-	概略	-
	04年	詳細	-	-	概略	-	概略	-

1年次生(Fクラス)に関して

1年次生はKITでの学生生活経験がほとんどない状態であるため、「受験に関して」「KITの認知経路」「KITのイメージに関して」といった項目を中心に聞いた。

「詳細」と「概略」に関して

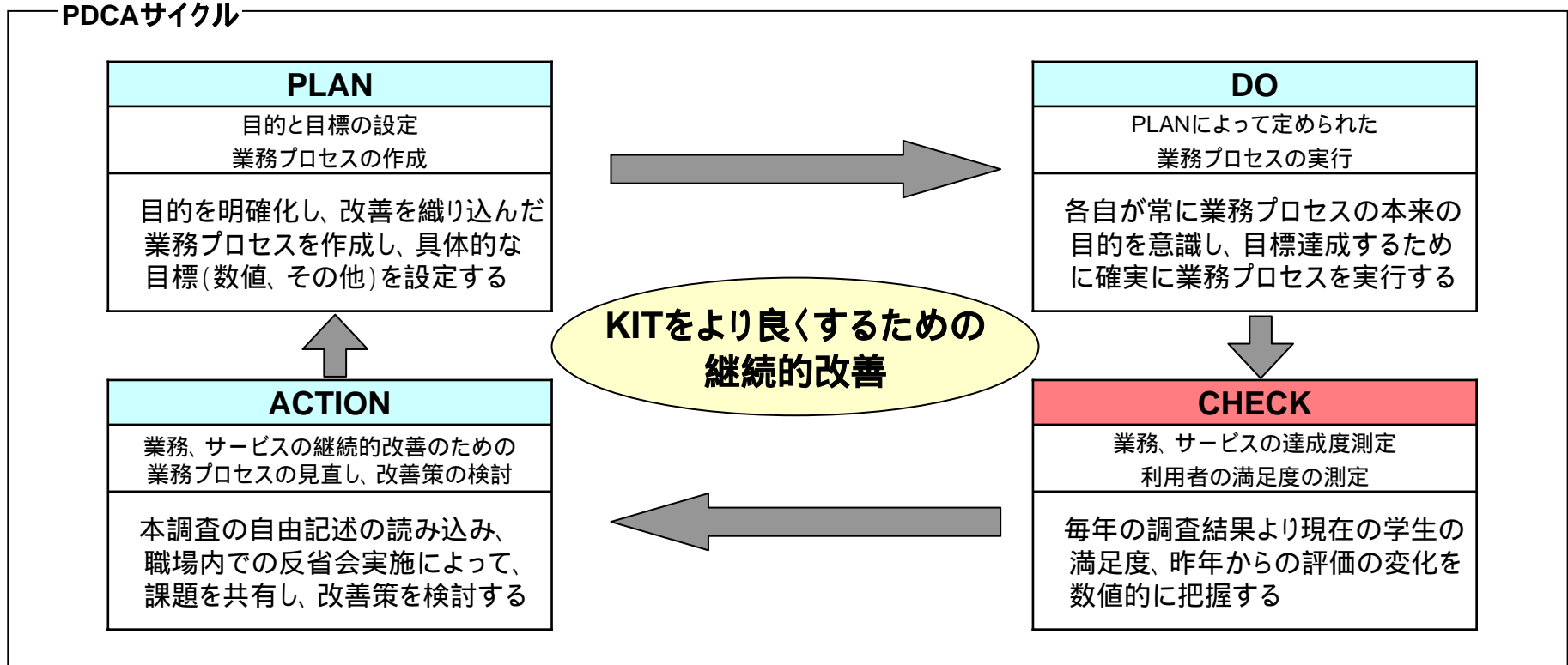
上記表の「詳細」は各分野に関して詳細に評価を聞いたもので、主に在学生に対して聞いたものである。また、卒業・修了生、教員、職員は在学時点から時間が経過したり、直接的な利用者ではない可能性があるため概略を聞いた。従って、同じ分野の質問をしていても、比較は不可能となっている。

「自分自身の能力」に関して

教員には「自分自身の能力」を「KITの卒業生の能力」と置き換えて聞いた。また、全く同じ内容で「社会で求められる人材像」も聞いている。

PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく継続的な改善を目指すものである、従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか？」「自らが設定した目標は達成したのか？」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができると思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには、巻末の「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

集計・分析上の注意点に関して

今回の調査結果は基本的に下記の方針で集計、分析を行っている。ただし、これらの内容と異なる際には各ページに注意書きを付けている。

分野	注意点	備考
平均値に関して	<ul style="list-style-type: none">• 平均値は学生だけのデータを平均した「学生平均」と、全属性のデータを平均した「平均」の2つを使用している。• 全属性の平均値は、本来であれば全体の合計を全体のサンプル数で除することで算出すべきであるが、今回の回答者数に偏りがあるため、各属性の平均値を足し合わせて属性の数で除して算出した。	
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none">• 各調査項目を属性毎に比較するために、加重平均値を多く活用している。• 今回の調査では、選択肢を「満足～まあ満足～やや不満～不満」「そう思う～ややそう思う～あまりそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。• 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。• 無回答は回答者数に含めていない。また、02年は一部に「わからない」という選択肢があったが、加重は「0」として全体数には含めている。	
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none">• 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に、本来の棒グラフでは見にくくなるために折れ線グラフで表現している。• 横帯グラフ中の数字には単位がないが、全て「%」となる。• 加重平均の折れ線グラフと加重平均による前年との比較棒グラフは、全て数値軸の設定を一致させている。	
実施年による違い	<ul style="list-style-type: none">• 一部の選択肢で02年と03年、04年の違いがあるが、分析・集計方法に関しては各ページに明記している。• 同じ4択であるが、02年では「高く評価できる～評価できない」という選択肢で、03年、04年では「満足～不満」という違いがあり、そのニュアンスの違いが結果に影響している可能性も考えられる。• 収集すべき情報の吟味、回答者の負担軽減などによって、03年に実施した設問を04年で廃止するなど、調査項目自体の見直しも行っている。	<ul style="list-style-type: none">• 04以降は選択肢を完全に統一している。• 今後も調査項目の見直しは行う予定。

詳細データに関して

各分野の後半に掲載されている詳細データは、02年から04年までの総合調査の全データであり、加重平均の算出などに使われた最も基礎的なデータである。加重平均で見えてこない点や属性別の詳細な比較といったデータの分析は下記の具体的な活用事例を参考にして各自で分析、活用ができるようになっている。

詳細データの具体的な活用事例

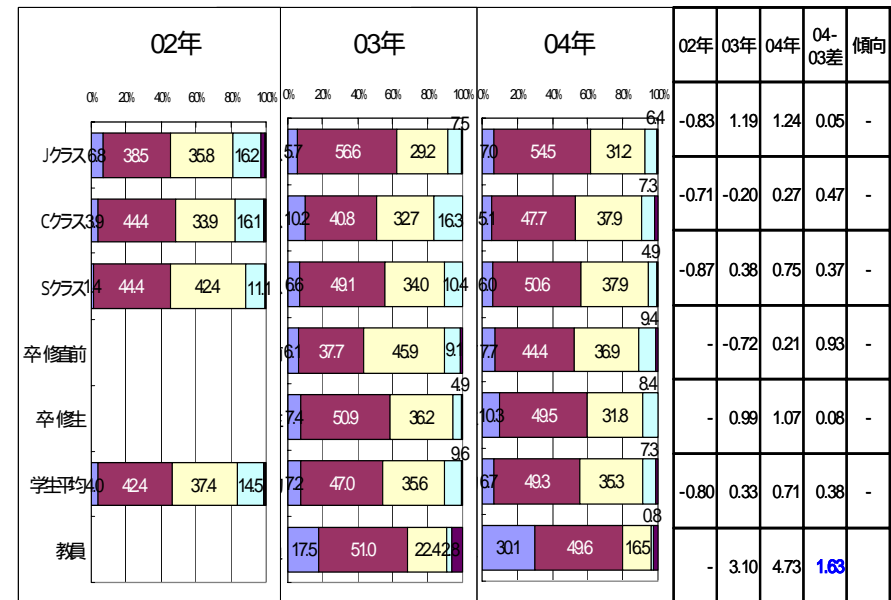
具体的には下記のような活用事例が考えられる。

なお、グラフと集計表の数値の内容に関しては各分野の冒頭で説明をしている。

例1：分かりやすい授業が受けられる

- 回答者は左端の属性より、Jクラス、Cクラス、Sクラス、卒業・修了直前、卒業・修了生、教員の6属性であることが分かる。
- 学生平均は教員以外の回答を平均したものであり、学生の全体的な意見と見ることができる。
- 横帯グラフを見ると、02年のJクラスで「分かりやすい授業が受けられる」と満足しているのは、6.8%であることが分かる。逆に、不満に感じているのは16.2%である。
- 02年は一部の属性には質問を行っていないが、03年、04年は全て比較が可能であり、これによって学生の意識がどのように変わっているかを見ることができる。
- 右表は加重平均であり、「満足」に+10点、「まあ満足」に+5点、「少し不満」に-5点、「不満」に-10点の荷重をかけて回答数で除した数値となっている。
- 数値が大きい方が満足度が高いということになり、マイナスの場合は「満足」よりも「不満」の方が多かったことになる。
- 表内の「04-03差」は、04年の加重平均値から03年の加重平均値をマイナスしたものであり、プラスの場合は04年の方が評価が高かったことになる。
- 「傾向」の矢印は「差」を視覚的に表したものであり、04年の数値から03年の数値をマイナスしたものが、1より大きい場合は「↑」として昨年より評価が上がったことを示している。また、-1より小さい場合は「↓」として評価が下がったことを示している。

分かりやすい授業が受けられる



<2-1> 学生の回答サマリー

授業の内容、進め方共に昨年より評価が上がっており、差し迫った課題は見あたらないが興味を持たせる工夫などが必要。

- 授業内容の満足度は、ほとんどの授業で昨年より評価を上げている。ただし、「コンピュータ演習」や「セミナー系」の評価が下がっており、見直しも必要だと思われる。
- 授業の進め方に関しても大きな課題はないが、より興味の持てる授業を求めている声もあり、常に工夫を重ねて学生の満足度を上げる授業が必要であろう。
- 授業は大学の最も本質的なもので、大学の総合的な満足度を大きく左右することも分かっており、全ての中心として取り組むべきポイントとすべきである。

学習環境・学習支援の満足度は高く昨年より評価を上げているが、スタッフへの評価は厳しく、スタッフと学生の意識に差も見られる。

- 個別指導や資格取得支援といった個人への支援策などの評価が高く、ほとんどの分野で昨年より評価が向上している。
- マイナス評価ではないが、学習支援に従事するスタッフへの評価は高学年ほど厳しい傾向があった。しかし、この点も昨年より評価を上げていた。
- 教員が考えるほど学生は学習支援に満足していないという意識の差があったが、学生ニーズを確実に把握してこの差を埋めながら改善を進めるべきだと思われる。

昨年よりアカデミックで勉強しやすい雰囲気、学生生活の満足度も向上しているが、尊敬できる先輩が減るなどの気になる点もあった。

- 学生生活の中では友人関係が充実しているが、尊敬できる先輩が減り、教職員には気軽に相談できないなど、友人以外の人間関係で気になる点があった。
- 雰囲気に関しては、アカデミックで勉強しやすい雰囲気になっていると感じているが、少し自由な雰囲気が薄れているとも感じていた。
- 学生生活に関する満足度は比較的高めで昨年より良くなっているため、差し迫った課題はなかった。ただし、Cクラスは学生生活の充実度も低く注意が必要であろう。

就職支援の評価は昨年よりも上がっているが、情報不足を感じている学生は増加しており、何らかの対策が必要だと思われる。

- 学生は教員が考えているほど現在の就職支援に満足しているとはいえないが、就職支援に関する満足度は昨年より良くなっているものが多かった。
- 卒業・修了生は就職支援を厳しく評価していたが、卒業・修了直前の評価は高く、概ね昨年より良い評価であった。
- 就職支援で不足しているのは企業情報や比較情報などであり、今後は情報提供を中心とした改善が必要になるとと思われる。

「サービスや機能」面は昨年より僅かに評価が下がっていた。中でも「授業を聴講する環境」の評価が下がっている点が気になった。

- 機能面の評価は半数程度が昨年より評価を下げていた。しかし、相対評価では最もスコアの低い「穴水湾自然学苑」が昨年より大きく評価を上げていた。逆に評価を下げていたのは「池の平」「サービスセンター」「PMC」などであった。
- 「サービスや機能」は評価を下げたとはいえ、他分野と比較すると満足度は高い。
- 特に大学の重要な機能である「授業を聴講する環境」「知識を深める環境」といった点が評価を下げているのは問題であり、早急な対策が必要だと思われる。

昨年より評価が下がったが「サービスや機能」の評価が最も高く、次いで「就職支援」「学生生活」「学習環境・学習支援」「授業」であった。

- 「サービスや機能」に関しては当初から評価が高く、今回も最も評価が高かった。しかし、昨年と比較すると評価は下がっているため注意が必要だと思われる。
- 大学として最も重要な「授業」の満足度は昨年より向上しているが、相対的な満足度は最も低い。これが最優先で取り組むべき課題だと思われる。
- 昨年と同様にCクラスは全般的に満足度が低い傾向が見られた。中だるみかと思われるが、Cクラスの満足度向上策が必要だと思われる。

「授業」「学習環境・学習支援」「学生生活」「就職支援」の4つの分野の評価は前年より良くなってきており、大学全体で良い流れが出てきたように思われる。ただし、「授業」などは相対的な評価が低く最優先で改善されるべきだと思われる。「サービスや機能(利用価値)」は相対的な評価は高いものの、昨年と比較すると評価を下げているため注意が必要であろう。また、以前よりCクラスの満足度の低さが目立っているため、何らかの施策が必要かと思われる。

「授業」「学習環境・学習支援」の満足度が大学の総合満足度を大きく左右している。

- 大学の中心的な機能である「授業」と、その周辺機能である「学習環境・学習支援」の満足度が大学全体の総合満足度に大きな影響を与えている。
- 学生が大学の設備や立地、周辺環境などの二次的な部分に対する満足度で大学を評価しているのではなく、中心的な機能である「授業」「学習環境・学習支援」で評価しているというのは非常に健全で望ましい姿だと思われる。それに応えるためにも更なる「授業」「学習環境・学習支援」の充実が望まれる。

校風が自分にあっているかどうかは、大学の総合満足度に大きな影響を持っている。

- 当然のことであるが、校風が自分にあっているかどうかは大学の満足度を大きく左右する要因であり、入学時にミスマッチを起こさないようにすることが重要となる。
- 受験者に対する広報を充実させるなどして、校風とのミスマッチが起きないようにすることも必要になってくるとされる。また、そのような活動が退学者や落第者を減らすことにもつながるとされる。

「授業」の中でも特に専門科目の満足度が全体満足度には及ばず影響が大きいいため、専門科目の更なる充実が必要。

- 「工学基礎実験」「工学専門実験」「専門基礎科目」「専門コア科目」など、専門分野の科目の満足度が全体満足度を左右しており、専門分野へのこだわりがあることが確認できた。
- 今後は更に専門分野の科目の魅力向上を図り、専門分野の内容向上と学生の満足度向上という好循環を起こすことを狙うべきだと思われる。

友人関係の充実や職員に対する満足度よりも、教員に対する満足度の方が大学の総合満足度に与える影響が大きい。

- 友人関係の充実が学生生活の充実に影響を及ぼしている。また、職員に対する満足度も学生生活の充実に影響を及ぼしている。
- しかし、大学の総合満足度に最も大きな影響を及ぼしているのは教員に対する満足度であった。
- 教員の授業での言動や授業以外での学生への接し方などが学生の満足度を大きく左右していることを再確認しながら大学運営を進めることも必要かと思われる。

専門分野で内容的に豊富なテーマに取り組み、学問全体の中でどこに位置付けられるのかが分かるような授業を受けたいと感じている。

- 学生にとって魅力的な授業は、興味を持って様々な最新テーマに取り組める専門分野の学問であり、分かりやすく向学心の湧くものであるといえる。
- また、重要なのは学問全体の中や、社会に出た際にどこで使えるのかといった位置づけが明確になっていることであった。
- これらを考えると、個々の授業の充実も重要であるが、学科毎の授業の全体構造と個々の授業の関係性が分かりやすくなっていることも重要だと思われる。

「就職支援」や「サービスや機能(利用価値)」に対する満足度は、大学の総合満足度に与える影響が小さい。

- 「就職支援」に関しては「資料室、就職資料の掲示」「進路開発センターHP、企業情報DB」など、情報の充実が重要である点が見えてきた。
- 「サービスや機能」などに関しては実験実習、研究をする施設、コンピュータやネットワーク関連施設の充実に関心が集まっていることが確認できた。
- しかし、「就職支援」や「サービスや機能」などの充実は二次的なものであり、大学の総合満足度にはあまり大きな影響を持っていないことが確認できた。

大学の中心的で最も重要な機能である「授業」と、それを充実させるための「学習環境・学習支援」の2点が、大学の総合満足度を大きく左右することが確認できた。

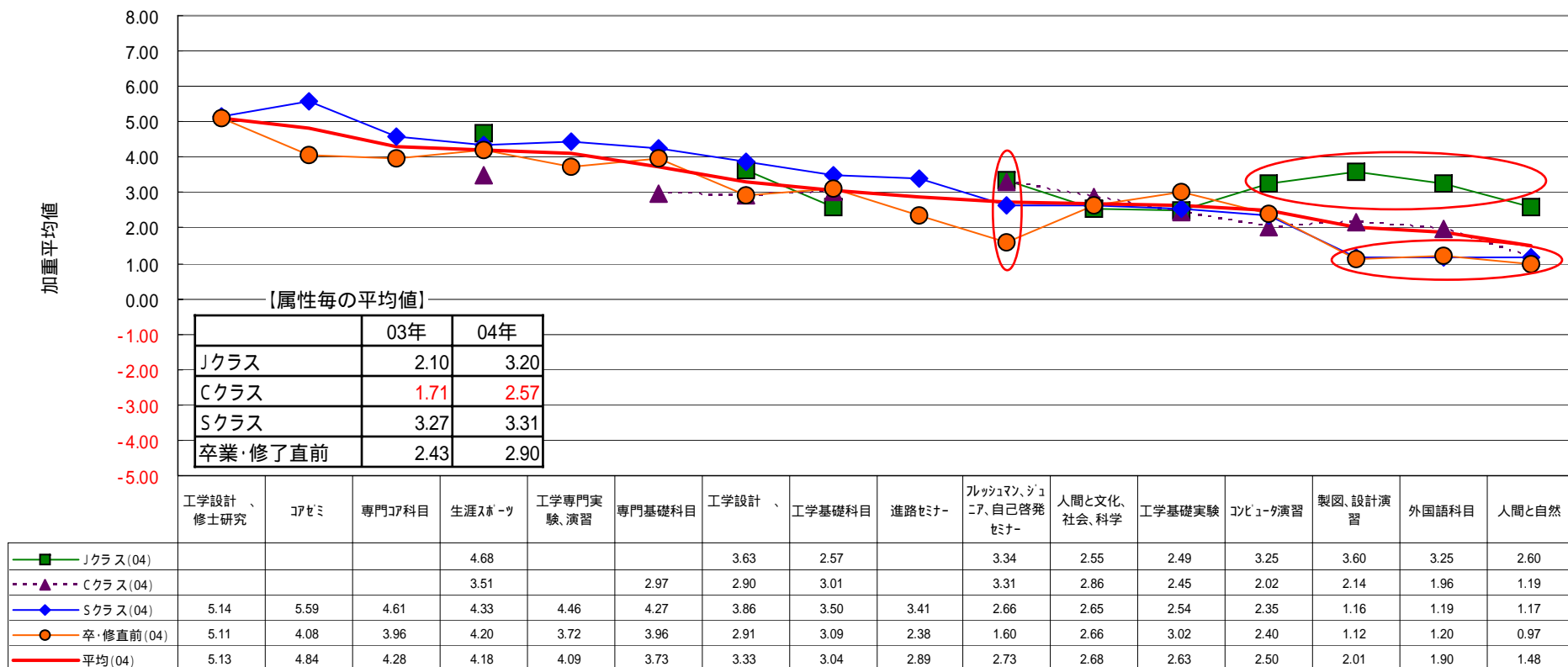
また、「授業」の中でも専門科目の充実が重要であり、学生も専門科目に関心を持っていることが確認できた。

今後は工科系大学として更に専門科目の充実を進め、それによって学生の満足度を向上させるという好循環を目指すべきであろう。

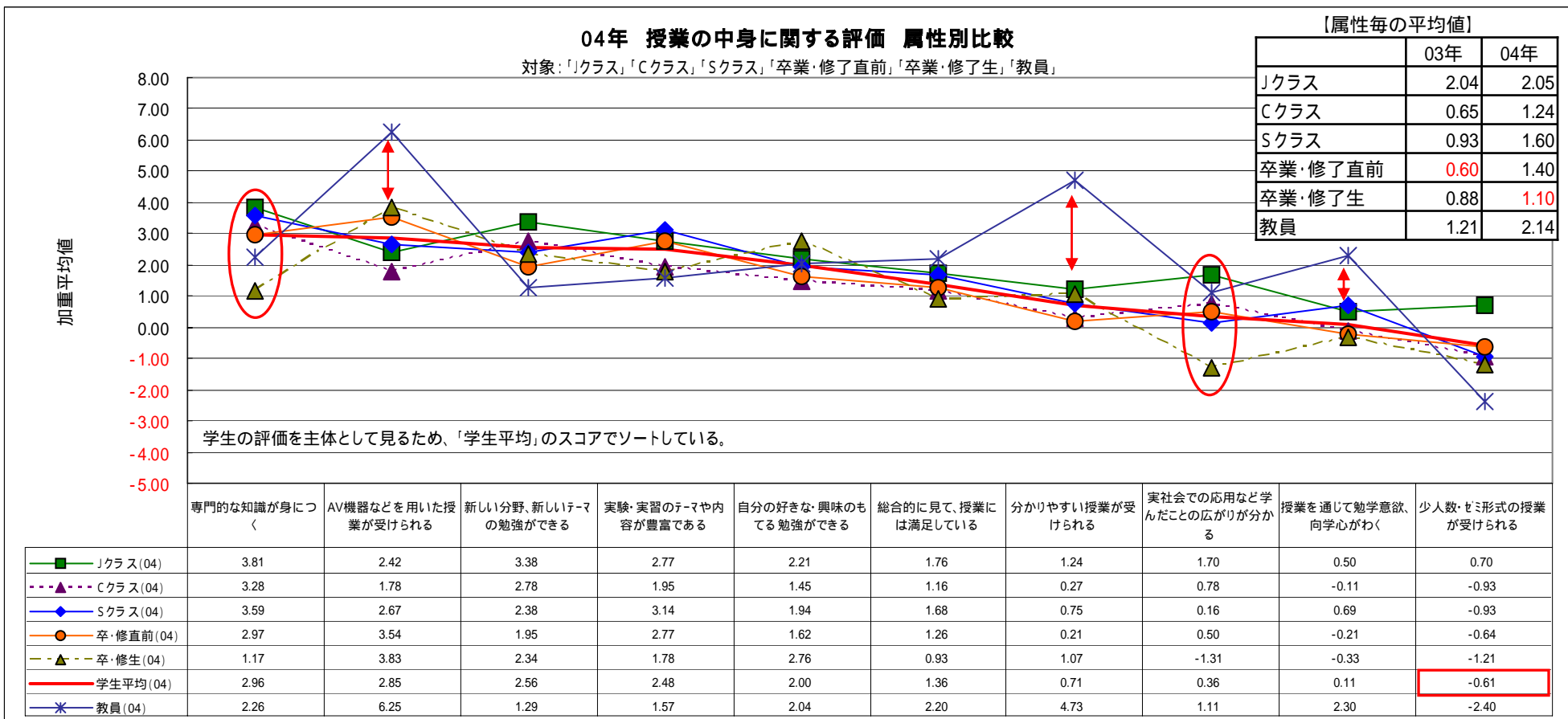
- 現在、授業を受けている現役の在学生の授業の分野に関する満足度を加重平均で比較したところ、「工学設計」、修士研究」がトップであった。次いで「コアゼミ」「専門コア科目」「生涯スポーツ」という順であり、トップに来ているものは03年とほぼ共通であった。
- 属性毎の平均値を見ると、Sクラス、Jクラス、卒業・修了直前、Cクラスという順であった。詳細は後述するが、全体的にスコアは高めであり、授業に関する満足度が向上していることが分かる。
- 属性毎の特徴を見ると、Jクラスは「工学基礎科目」以外は満足度が高く、他の学年では下位にある「コンピュータ演習」「製図、設計演習」「外国語科目」「人間と自然」の満足度も高めであった。属性毎の平均値を見るとCクラスが低めであったが、03年ほどではなかった。
- 高学年であるSクラスと卒業・修了直前を見ると、Sクラスは平均値でも最も高かったように、どの科目の満足度も平均より高めであった。しかし、「製図、設計演習」「外国語科目」「人間と自然」の満足度は低く、この3つが低い点は卒業・修了直前と同じ傾向であった。また、卒業・修了直前は「フレッシュ・ジュニア・自己啓発セミナー」の評価も低かった。
- また、03年はマイナススコアとなる科目があったが、04年には1点以下になるものも少なく、全体的に評価が高いといえる。

04年 授業に関する満足度 属性別比較

対象:「Jクラス」「Cクラス」「Sクラス」「卒業・修了直前」の在学生全員



- 授業の進め方や切り口などに関して聞いてみたが、ここでもほとんどの項目がプラスであり、良い評価を得ているといえる。
- まず平均を見ると、「少人数・ゼミ形式の授業が受けられる」だけがマイナス評価であり、残りは全てプラス評価であった。最も評価が高かったのは「専門的な知識が身につく」であった。
- グラフにはないが、昨年と比較してもトップ2と最下位は同じ項目であり、相対的な評価は昨年とはそれほど異なっていなかった。
- 属性毎の特徴を見ると、在学生と卒業・修了生の意見は概ねまとまっていた。ただし、「専門的な知識が身につく」「実社会での応用など学んだことの広がり分かる」という2点は卒業・修了生の満足度が低かった。これは、卒業・修了後に実感として感じたものが現れていると思われる。
- また、教員の評価が目立つ点もあった。「AV機器などを用いた授業が受けられる」「分かりやすい授業が受けられる」「授業を通じて勉学意欲、向学心がわく」の3点は教員の評価が高めであった。これを見ると、この3点に関しては教員が思うほど学生の満足度は高くないといえる。
- 逆に「新しい分野、新しいテーマの勉強ができる」「少人数、ゼミ形式の授業が受けられる」という点は、教員が思っている以上に学生の満足度は高いなど、少しずつではあるが意見の相違が見られた。



評価が『高かった』授業

**卒業生はコンピュータ関連や基礎的な授業の評価も高いが、
在学生は専門性の高い授業の満足度が高い傾向がある**

- 高学年で満足度が高かったのは「工学設計」、「修士研究」「コアゼミ」「専門コア科目」などの専門性の高い科目であった。
- 在学生全体で満足度が高かったのは「生涯スポーツ」「専門基礎科目」「工学設計」、「」などであり、例外はあるが専門分野の授業の評価が高い。
- 卒業生は「コンピュータ関連分野」「基礎学力演習」「専門分野の基礎実習(実習)」など、基礎的な分野の評価が高い。



評価が『低かった』授業

**外国語科目は学生からの評価が低い傾向が見られた。
また、明確な傾向ではないが教養分野の評価も低い傾向があった。**

- 在学生で満足度が低かったのは「人間と自然」「外国語科目」「製図、設計演習」などであり、これらの科目は高学年ほど満足度が低い傾向にあった。
- 学年による差はないが、「コンピュータ演習」「工学基礎実験」「人間と文化、社会、科学」の評価も高くはなかった。
- 卒業生から評価が低かったのは「外国語」「教養分野」「専門分野の応用実習(実習)」「専門分野の応用学習(座学)」などであった。

昨年より評価が『上がった』授業

**在学生の評価では大多数の授業が昨年より評価を上げていたが、
特に「人間と自然」「工学設計」、「」の評価上昇が目立った。**

- 高学年で昨年より評価が上がったのは「工学専門実験、演習」「コアゼミ」「専門コア科目」であったが、上がり方はそれほど大きくなかった。
- 在学生全体で評価が上がったのは「人間と自然」「工学設計」、「」「工学基礎科目」などであり、「人間と自然」と「工学設計」は大きく評価が上がっていた。
- 卒業生で評価が上がっていたのは「専門分野の基礎実習」「コンピュータ関連分野」「各種セミナー」であったが、上がり方は少なかった。



昨年より評価が『下がった』授業

**昨年と比べて「コンピュータ演習」の評価の低下が気になった。
また、セミナー系の授業も低下しており、見直しが必要だと思われる。**

- 在学生の授業評価で昨年よりも評価が下がっていたのは「コンピュータ演習」「進路セミナー」「フレッシュマン、ジュニア、自己啓発セミナー」の3つだけ。
- 卒業生は半数程度の授業分野の評価が昨年より悪く、特に「外国語」の評価は非常に下がった。「教養分野」「基礎学力演習」の評価も下がっていた。

授業の進め方に関する評価

**進め方に関しては大きな不満もなく、専門的で新しい知識が
吸収できると感じているが、「興味もてる」授業への期待がある。**

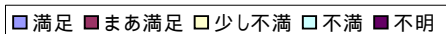
- 授業の進め方に関しては、専門的な知識や新しい分野やテーマの授業が、AV機器を用いた環境で受けられると評価している。
- 一方で少人数教育には期待できず、授業を通して向学心が沸きにくいといった不満も感じている。
- 授業の進め方に関しては、ほとんどの点で昨年より評価が上がっていたが、自分が好きで興味をもてる勉強は昨年よりもできにくくなっていると感じている。

その他、授業の評価で特筆すべき点

**総合的に見ると授業の満足度は昨年よりも向上しており、差し迫った
課題はない。しかし、一部の授業には見直しが必要だと思われる。**

- スコア的にマイナス評価を受けている授業もほとんどなく、昨年との比較においてもほとんどの項目が昨年より良い評価となっている。
- 「総合的な授業の満足度」も昨年より良くなっており、授業に関してはそれほど大きな課題も見つからない。
- ただし、これまで高評価だったコンピュータ演習の評価が下がった。セミナー系の授業は毎回課題がある。興味をもてる授業が望まれているなどの課題もある。

グラフの色分けは下記の通りで「不明」の数値は表示していない。



グラフの右にある数表は各クラスの加重平均を表しており、「差」は「04年」から「03年」のポイントを引きいたものとなっている。

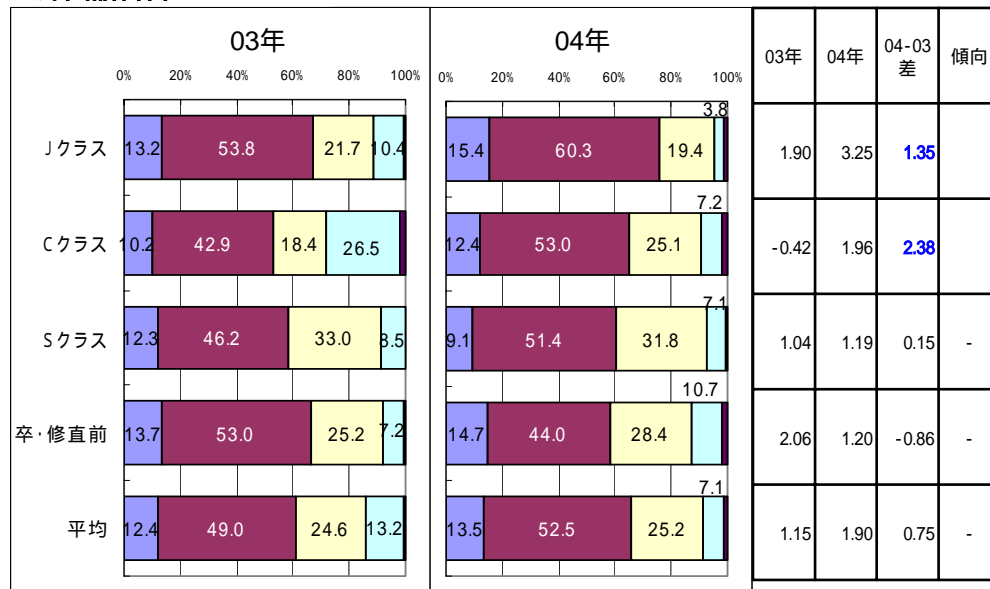
「傾向」の矢印は「差」を視覚的に表したものであり、04年の数値から03年の数値をマイナスしたものが、1より大きい場合は「↑」として昨年より評価が上がったことを示している。また、-1より小さい場合は「↓」として評価が下がったことを示している。

加重平均は「満足」に+10点、「まあ満足」に+5点、「少し不満」に-5点、「不満」に-10点の荷重をかけて回答数で除している。「不明」は回答者数に含めていない。

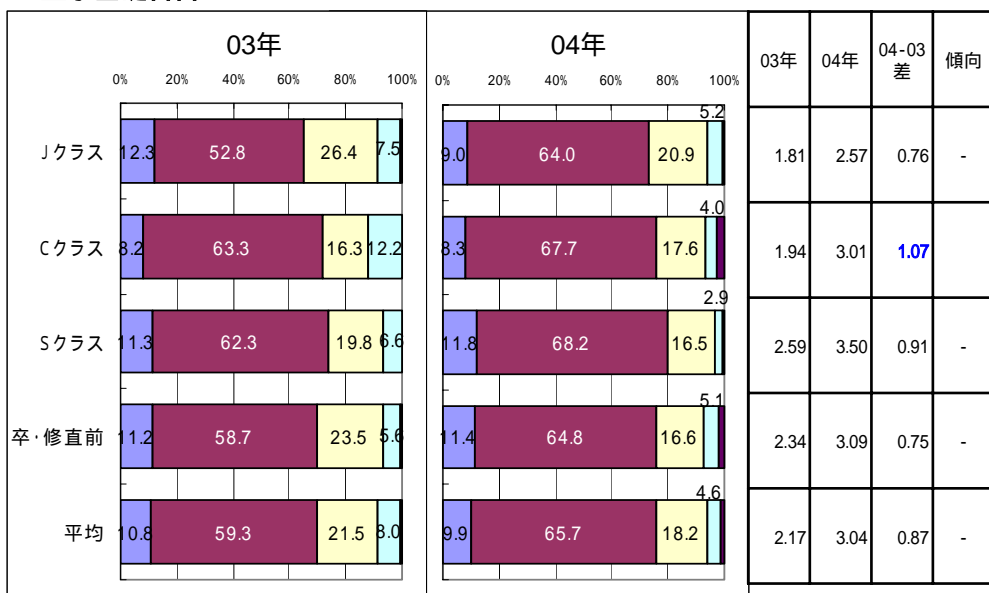
「平均」は全体の回答数から算出したものではなく、各属性の平均値を足し合わせて属性の数で除して算出している。

クラスによって実施されていない授業は空欄としている。

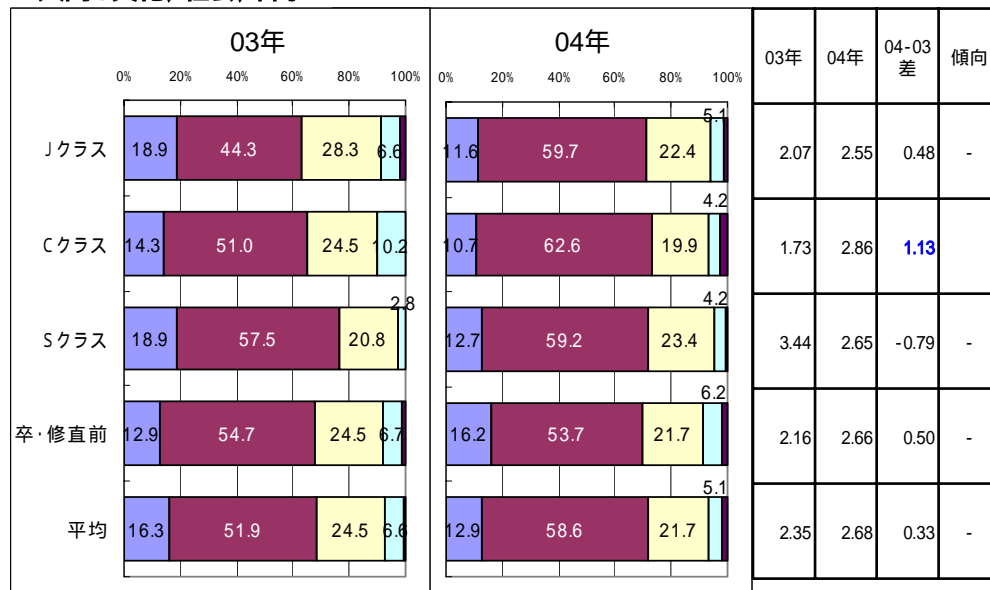
外国語科目



工学基礎科目

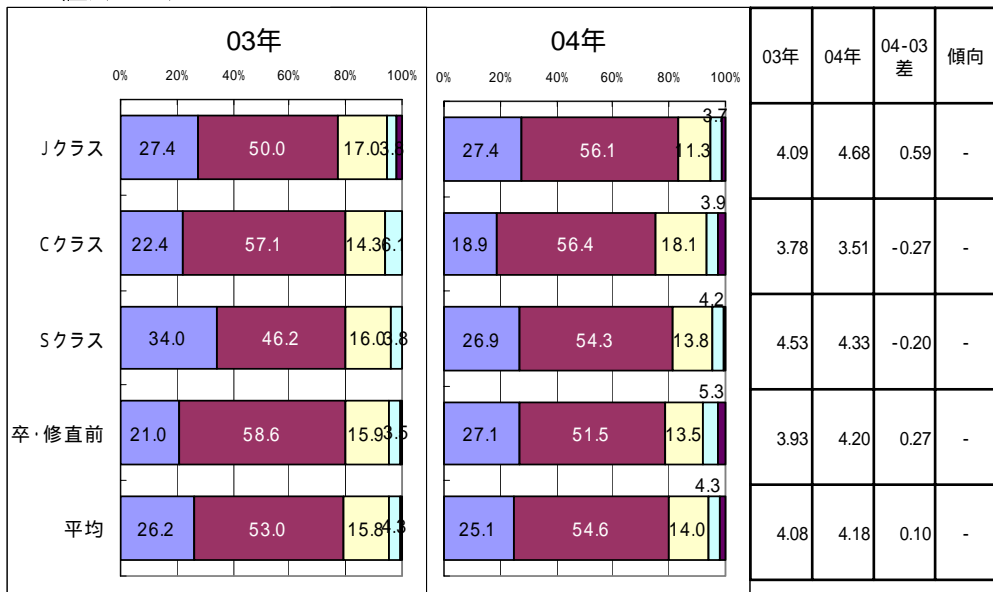


人間と文化、社会、科学

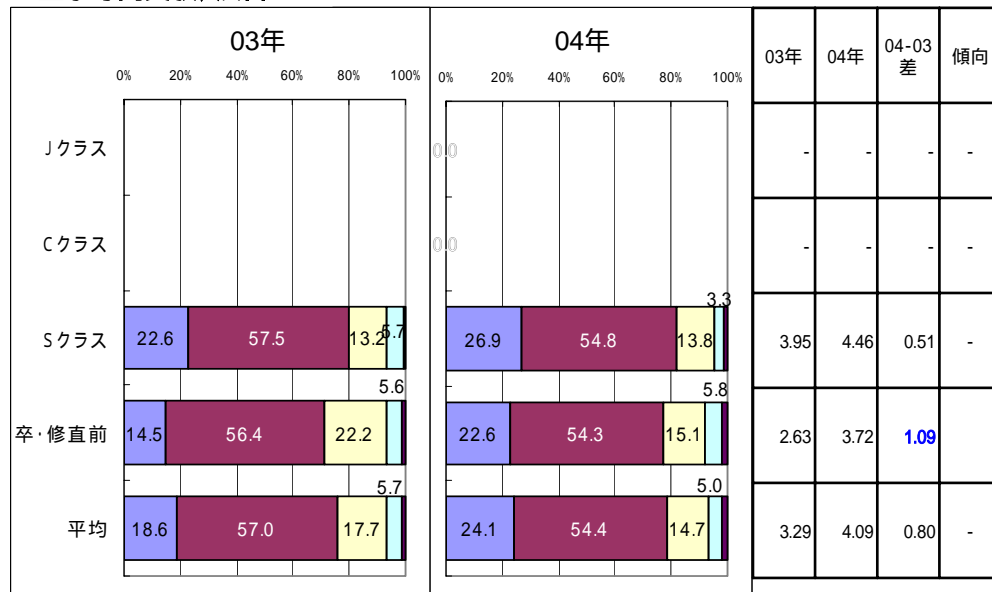


■満足 ■まあ満足 □少し不満 □不満 ■不明

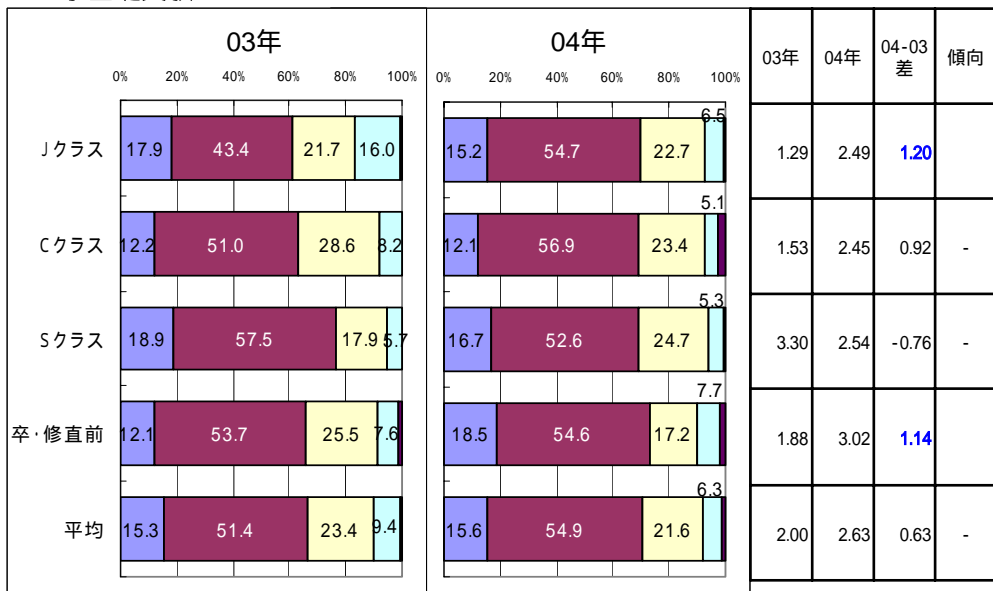
生涯スポーツ



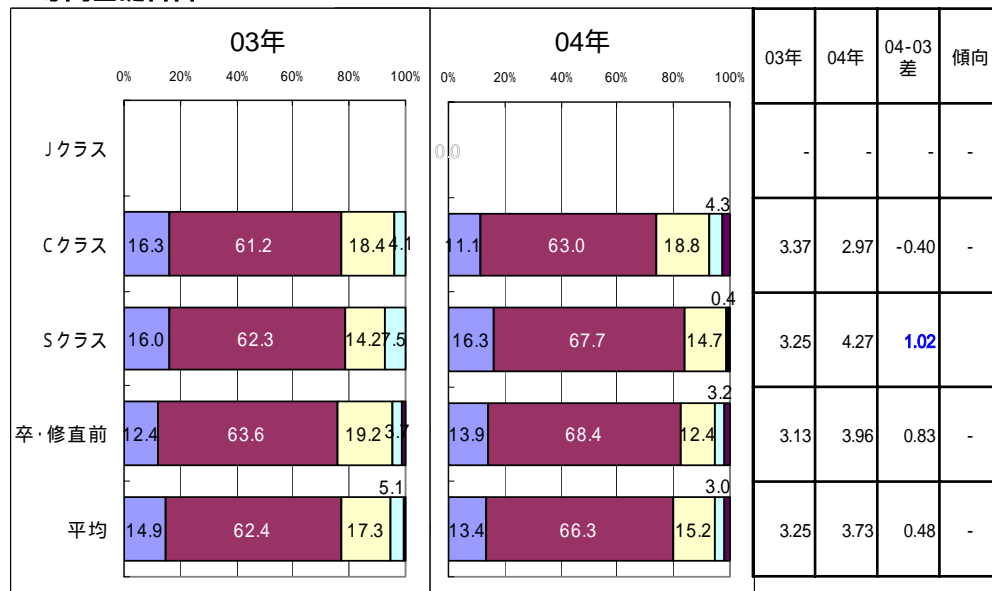
工学専門実験、演習



工学基礎実験

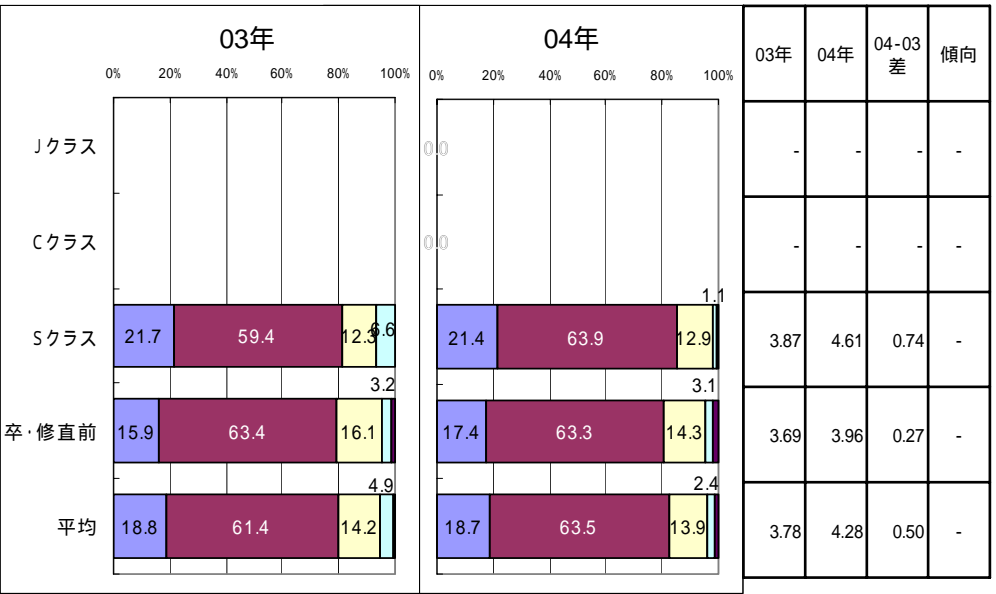


専門基礎科目

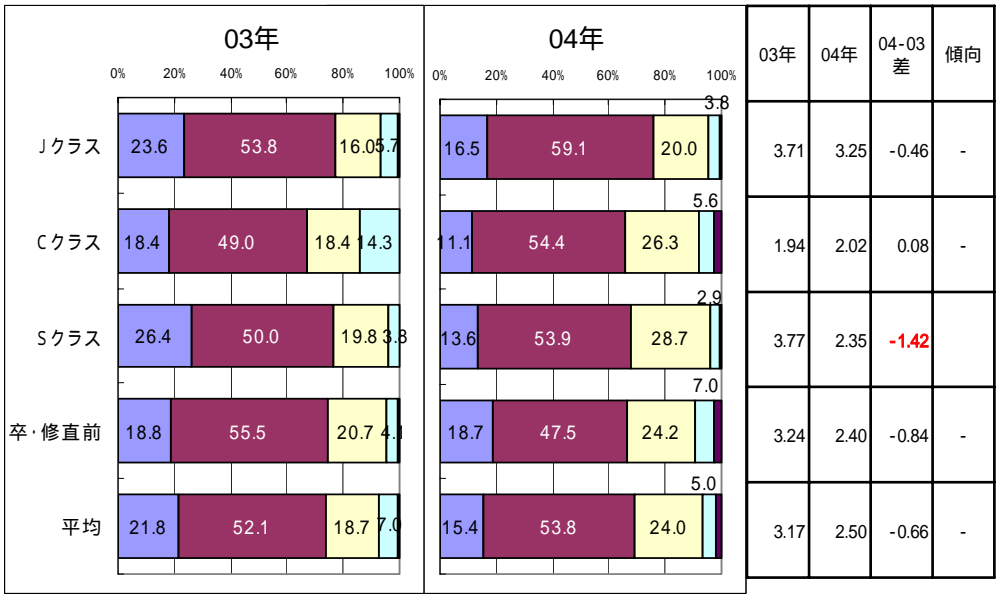


■満足 ■まあ満足 □少し不満 □不満 ■不明

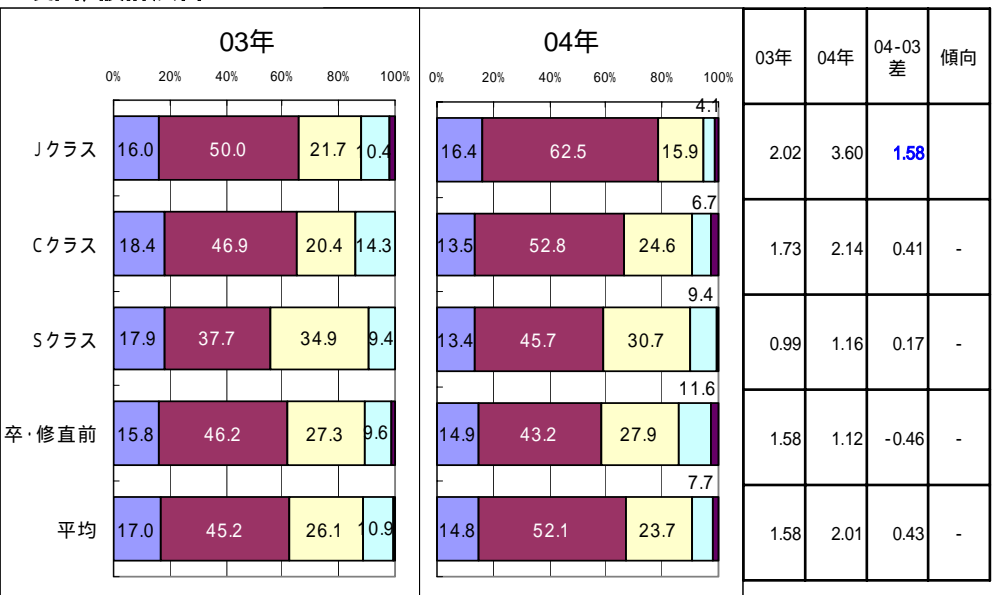
専門コア科目



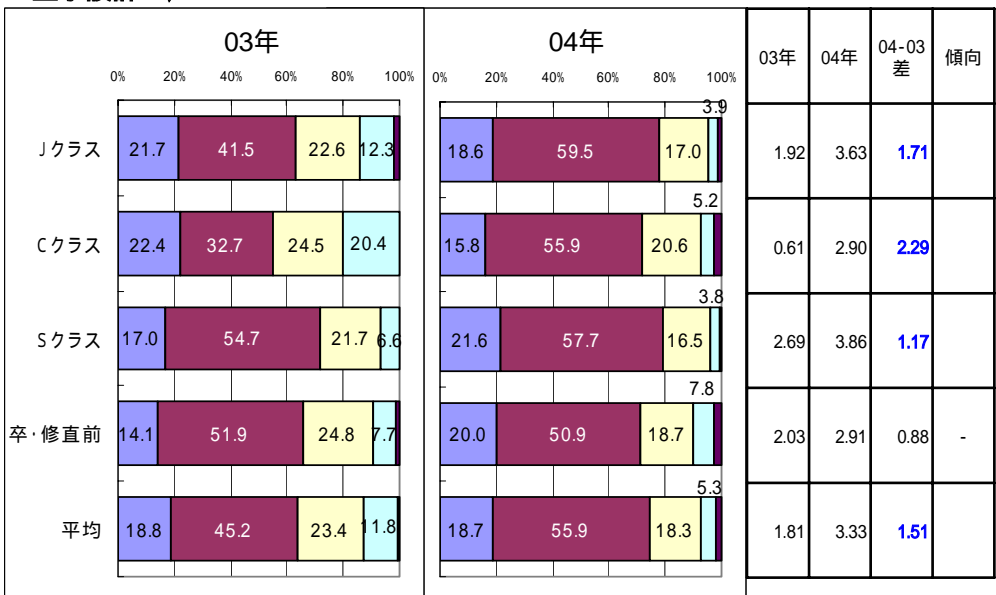
コンピュータ演習



製図、設計演習

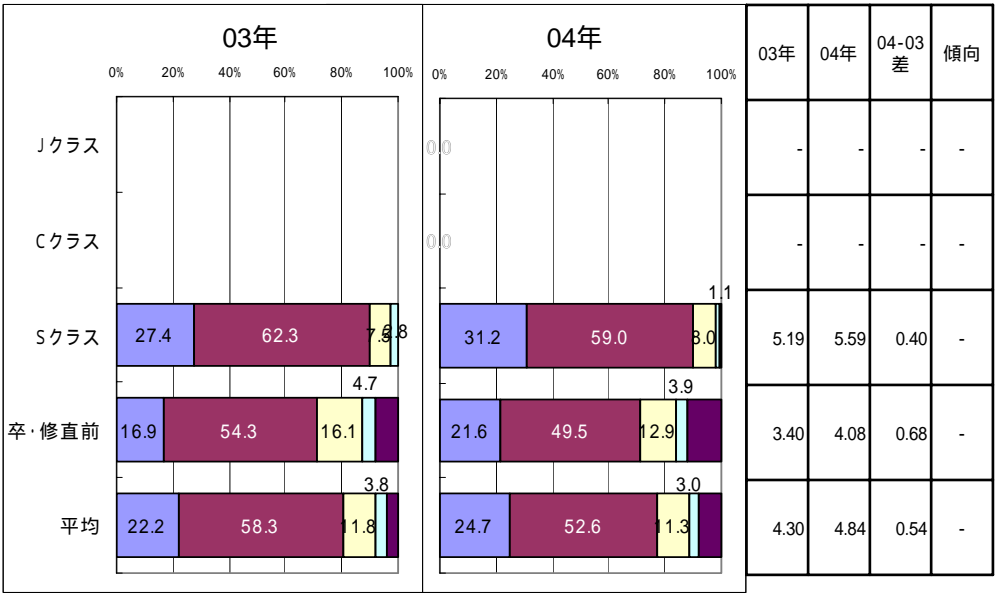


工学設計

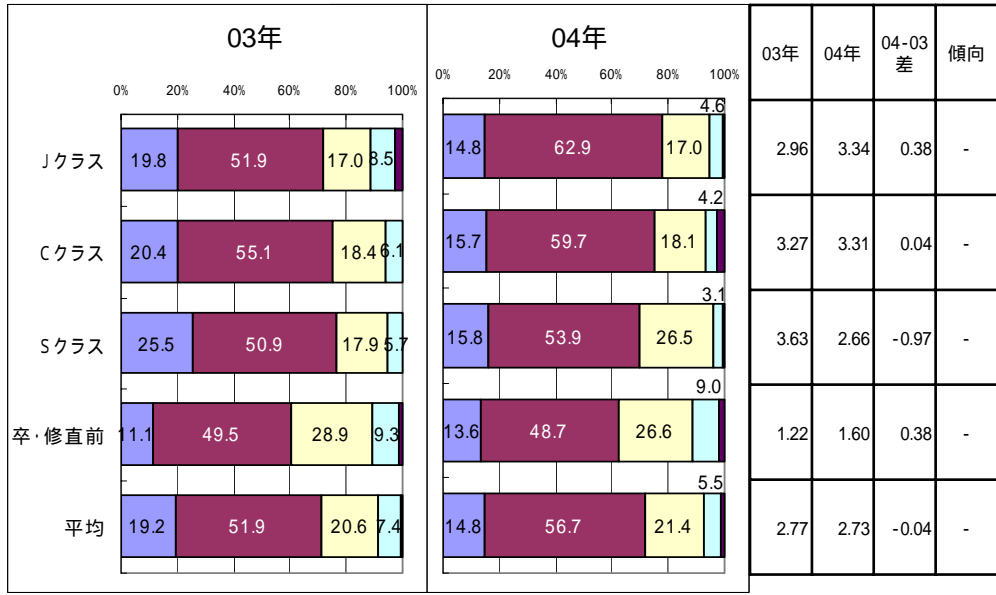


■満足 ■まあ満足 □少し不満 □不満 ■不明

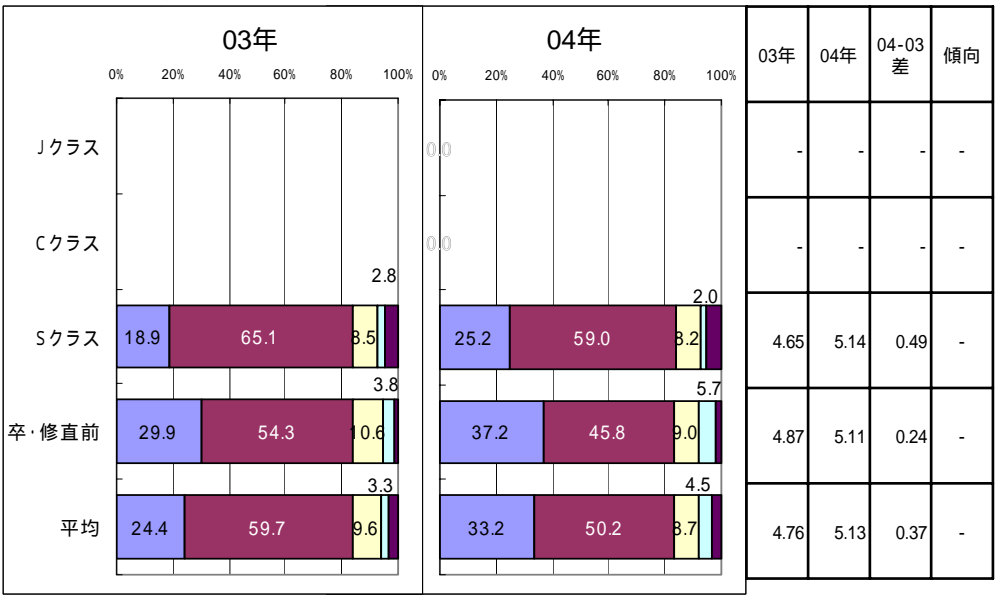
コアゼミ



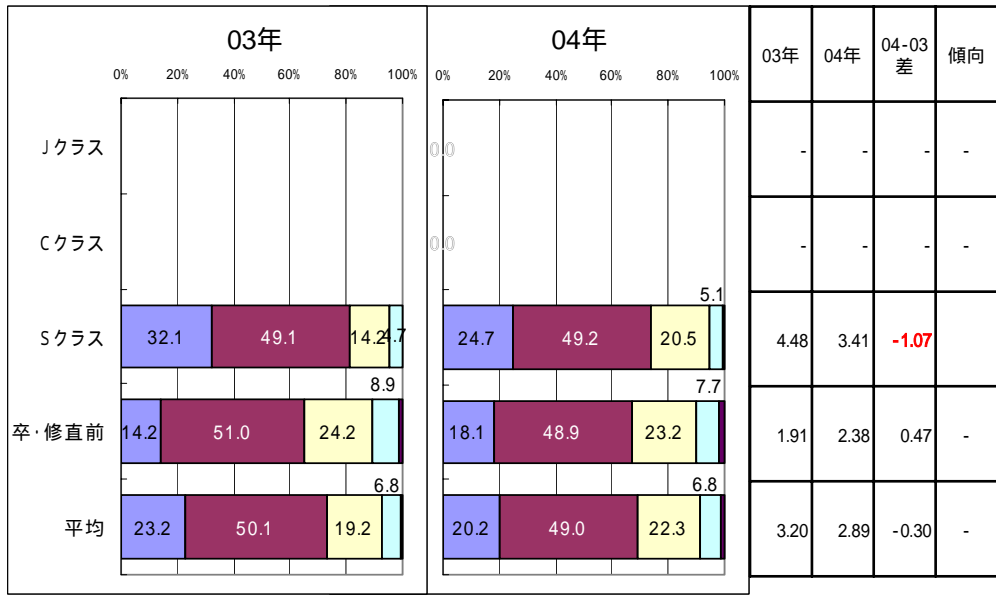
フレッシュマン、ジュニア、自己啓発セミナー



工学設計、修士研究



進路セミナー



■満足 ■まあ満足 □少し不満 □不満 ■不明

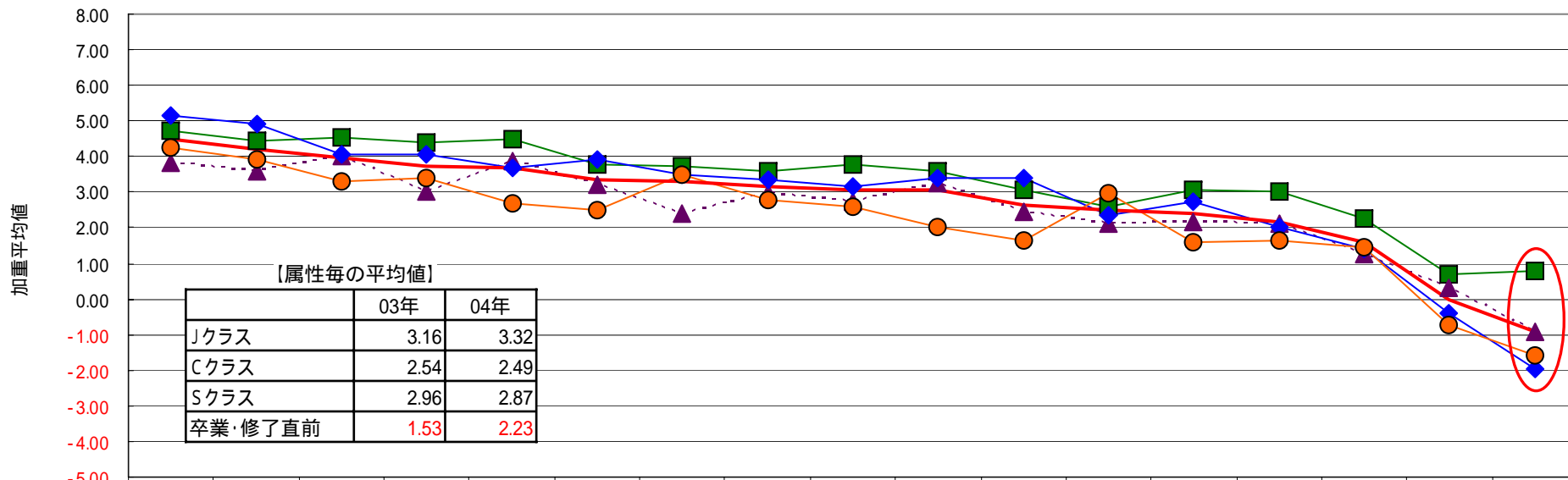
人間と自然



- 学習環境・学習支援に関して見ると、マイナス評価となったのは「3学期制」と「自己点検授業」の2項目のみであった。この2項目は昨年もマイナス評価であった。その他、「QPAポイント」「海外研修・留学」などの昨年と同様にスコアが低めであった。
- 最も評価が高かったのは「工学基礎教育センターでの個別指導」であった。次いで「能力開発センター(現・自己開発センター)の資格取得支援」「キャンパスノート」「オフィスアワーでのアドバイス」といった順であった。
- 属性別に見てもそれほど大きな特徴は見られず、属性間の意見の違いはそれほどなかったといえる。強いて言えば「3学期制」は「クラス」からは支持を得ていた。昨年もそうであったが入学後間もない「クラス」あたりまでは3学期制に理解を示している。
- その他、全般的に卒業・修了直前のスコアは低めであり厳しい評価をしており、「クラス」の評価が高めであった。差は微妙であるが高学年は学習環境や学習支援を厳しく評価しているといえる。
- 属性別の平均を見ると、昨年と同様に卒業・修了直前が最もスコアが低かったが、昨年ほどではなかった。

04年 学習環境・学習支援に関する満足度 属性別比較

対象:「Jクラス」「Cクラス」「Sクラス」「卒業・修了直前」

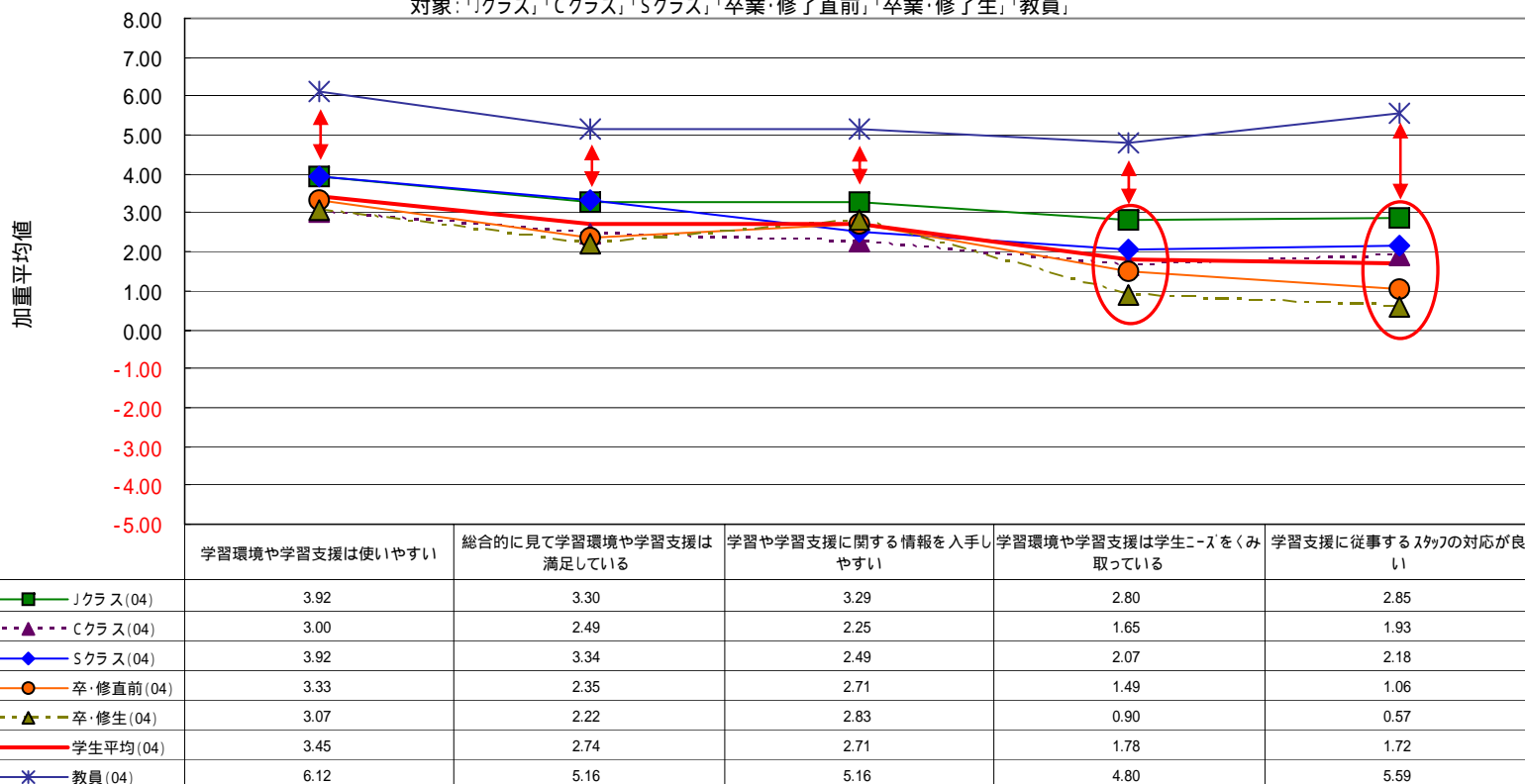


	工学基礎教育センターでの個別指導	能力開発センターの資格取得支援	キャンパスノートの内容	オフィスアワーでのアドバイス	学習支援計画書の内容	学習支援デスクでの個別指導	夢考房での技術指導	修学アドバイザーの教員アドバイス	奨学金	修学相談室、教務課の職員アドバイス	ライティングセンターでのアドバイス	学内での講演会	基礎英語教育センターやロースでの語学指導	海外研修・留学	QPAポイント	自己点検授業	3学期制
■ Jクラス(04)	4.75	4.44	4.51	4.39	4.49	3.79	3.72	3.56	3.79	3.60	3.07	2.57	3.06	3.01	2.24	0.68	0.81
▲ Cクラス(04)	3.84	3.60	4.01	3.03	3.89	3.20	2.41	2.99	2.75	3.24	2.44	2.10	2.16	2.10	1.24	0.34	-0.93
◆ Sクラス(04)	5.16	4.93	4.07	4.06	3.68	3.93	3.49	3.36	3.15	3.38	3.42	2.37	2.72	2.01	1.40	-0.41	-1.96
● 卒・修了直前(04)	4.25	3.90	3.32	3.38	2.71	2.47	3.51	2.78	2.57	2.00	1.64	2.97	1.59	1.62	1.47	-0.72	-1.57
— 平均(04)	4.50	4.21	3.98	3.72	3.69	3.35	3.28	3.17	3.07	3.06	2.64	2.50	2.38	2.18	1.59	-0.03	-0.91

- 学習環境・学習支援の個別項目ではなく、方向性や全体的な満足度を聞いた。教員には「学生にとってどうか?」という視点で聞いている。
- 全ての項目がプラス評価であり、良い評価を受けているといえる。しかし、学生と教員の意識の差は大きく、全ての項目において学生と教員のスコアに大きな開きが見られた。特に「学習支援に従事するスタッフの対応が良い」に関する評価の差は大きく、学生は教員が思っているほどスタッフの対応に満足していないといえる。
- 質問項目毎のスコアの差はそれほど大きくなかった。学生の評価を見ると「学習環境や学習支援は使いやすい」が最も評価が高かった。最も評価が低かったのは「学習支援に従事するスタッフの対応が良い」であり、学生が厳しい見方をしていることが分かる。
- 属性による差に関しては、学生と教員の差が大きい点は確認したが、学生だけを見ても「学習支援に従事するスタッフの対応が良い」「学習環境や学習支援は学生ニーズをくみ取っている」という点で学年による差が大きかった。この2点はJクラスの評価が最も良く、Sクラス、Cクラス、卒業・修了直前、卒業・修了生という順であり、Sクラスは例外であるが学年が上がるほど学生のニーズが大学側に届いていないと感じており、スタッフの対応に関する満足度も低い傾向が見られた。属性毎の平均でも卒業・修了生のスコアが低かった。

04年 学習環境・学習支援のあり方に関する評価 属性別比較

対象:「Jクラス」「Cクラス」「Sクラス」「卒業・修了直前」「卒業・修了生」「教員」



【属性毎の平均値】

	03年	04年
Jクラス	2.96	3.23
Cクラス	2.38	2.26
Sクラス	2.24	2.80
卒業・修了直前	1.37	2.19
卒業・修了生	1.70	1.92
教員	4.32	5.37

< 4-5 > 学習環境・学習支援に関する全体傾向

評価が『高かった』学習環境・学習支援

個人の専門的能力アップをサポートする仕組みと、個別の学習支援策の満足度が高かった。

- まず、「工学基礎教育センターでの個別指導」「能力開発センター（現・自己開発センター）の資格取得支援」といった個人の専門的能力アップをサポートする支援策の満足度が高かった。
- 次に「キャンパスノート」「オフィスアワーでのアドバイス」「学習支援計画書」「学習支援デスクでの個別指導」といった学習支援の仕組みの満足度が高かった。



評価が『低かった』学習環境・学習支援

「自己点検授業」「QPAポイント」などの自分の能力を測る仕組みや、海外、語学、講演会など専門学習と関係の薄い分野の評価が低い。

- 毎回、満足度が低い項目であるが「3学期制」の満足度はマイナスであった。また、「自己点検授業」の評価もマイナスであった。
- 次に、「QPAポイント」「海外研修・留学」「基礎英語教育センターなどでの語学指導」「学内での講演会」などの満足度が低かった。
- 学年による差はあまりないが、卒業・修了直前の満足度が低めであった。

昨年より評価が『上がった』学習環境・学習支援

ほとんどの分野で昨年より評価が上がっており、学生の支持を得て相対的評価を上げ始めているものも見られた。

- 「学習支援デスク」「能力開発センターの資格取得支援」「学習支援計画書」など、昨年はそれほど評価が高くなかった分野の評価が上がっている。
- まだ、相対的評価は低いQPAポイントの評価も昨年より上がっており、学生の支持を受け始めている。
- Jクラスが自己点検授業の評価を上げ、Cクラスが夢考房での技術指導の評価を下げるなど、学年によって特徴的な動きも見られる。



昨年より評価が『下がった』学習環境・学習支援

昨年と比較して大きくマイナスとなった分野はないが、「キャンパスノート」「学内での講演会」には何らかの対策が必要。

- 全般的に評価を下げた項目は少なく、全体としては評価は上がったといえる。
- ただし、昨年最も評価が高かった「キャンパスノート」と3番目であった「学内での講演会」の2つは昨年と比較してマイナス評価となっており、相対的な評価を下げる結果となった。
- 「修学アドバイザーの教員アドバイス」も昨年よりマイナスとなった。

学習環境・学習支援のあり方に関する評価

学習環境・学習支援は良い方向に進んでいるが、スタッフの評価は少し厳しい傾向があった。

- 学習環境・学習支援は使いやすく、総合的な満足度も高いといえる。また、昨年と比較しても使いやすさや満足度は良い評価となってきている。
- マイナス評価ではないが、学習支援に従事するスタッフの評価は高学年ほど厳しくなる。しかし、高学年ほどスタッフが昨年より改善されたと評価しており、高学年はスタッフを見る目が厳しいが、改善をきちんと見ているともいえる。

その他、学習環境・学習支援の評価で特筆すべき点

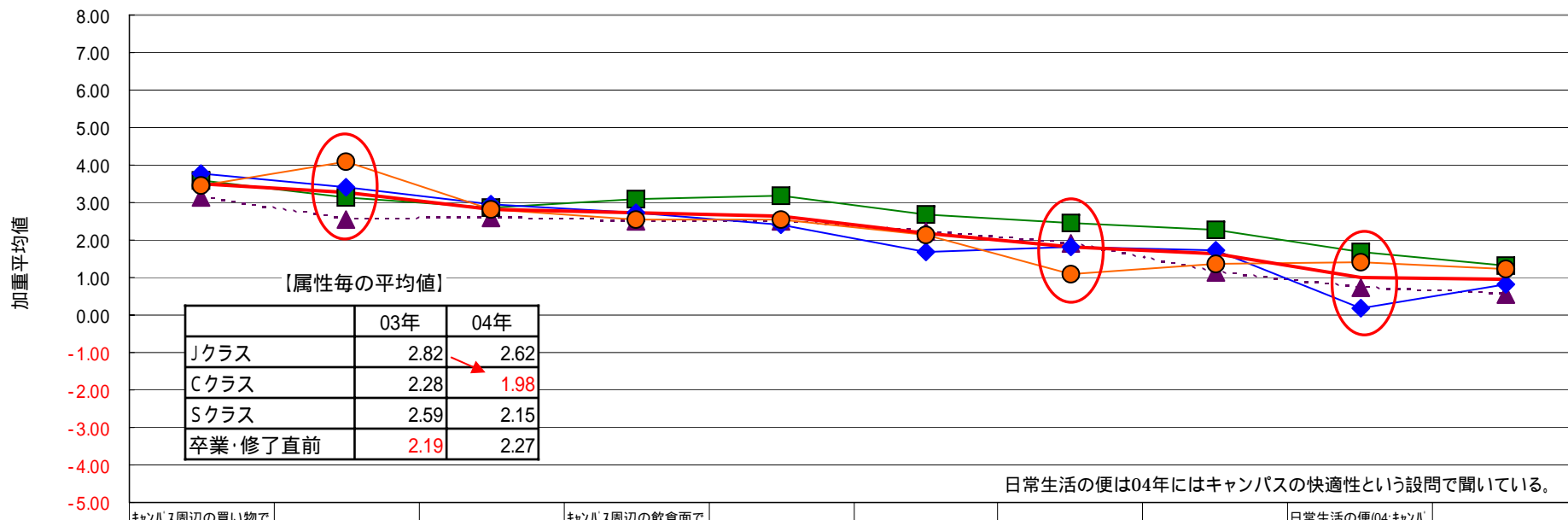
総合的な満足度は高く、いくつかの支援策の見直しは必要であるが、将来を考えて学生ニーズを先取りした施策検討が重要だと思われる。

- 満足度も高く、概ね昨年よりも改善されているため、大きな課題はない。
- 教員と学生の意識に差があることは仕方がないが、教員が思っているほど学生の満足度が高くないという事実も見られた。
- 改善するとすれば、スタッフの対応の仕方というテクニック面と、学生のニーズを探って今後の方向性を探すといったものになると思われる。

- 学生生活の個別の項目に関する満足度に関しても全ての項目でプラス評価であり、全般的に良い評価を受けているといえる。
- 最も評価が高かったのは「キャンパス周辺の買い物での利便性」であり、次いで「クラブ・サークル活動」「通学の利便性」などであった。逆に評価が低かったのは「工大祭」「日常生活の便」「学外でのアルバイト」などであった。
- 属性別に見ると、全体的にはJクラスが学生生活の満足度が全体的に高かった。Cクラスは全般的に満足度が低めであり、JクラスからCクラスへの1年間で学生生活の評価が大きく変わることが確認できる。また、その他の学年は項目によって満足度が異なっており、目立った特徴はなかった。
- 属性毎の平均を見ると、昨年は卒業・修了直前が最も低かったが、04年は上記のようにCクラスが最も低かった。
- 属性間で差が大きかったのは、「クラブ・サークル活動」「キャンパス周辺の環境」「日常生活の便」などであった。
- 逆に差が少なかったのは「キャンパス周辺の買い物での利便性」「通学の利便性」などであり、このあたりの評価は一致していた。

04年 学生生活に関する満足度 属性別比較

対象:「Jクラス」「Cクラス」「Sクラス」「卒業・修了直前」

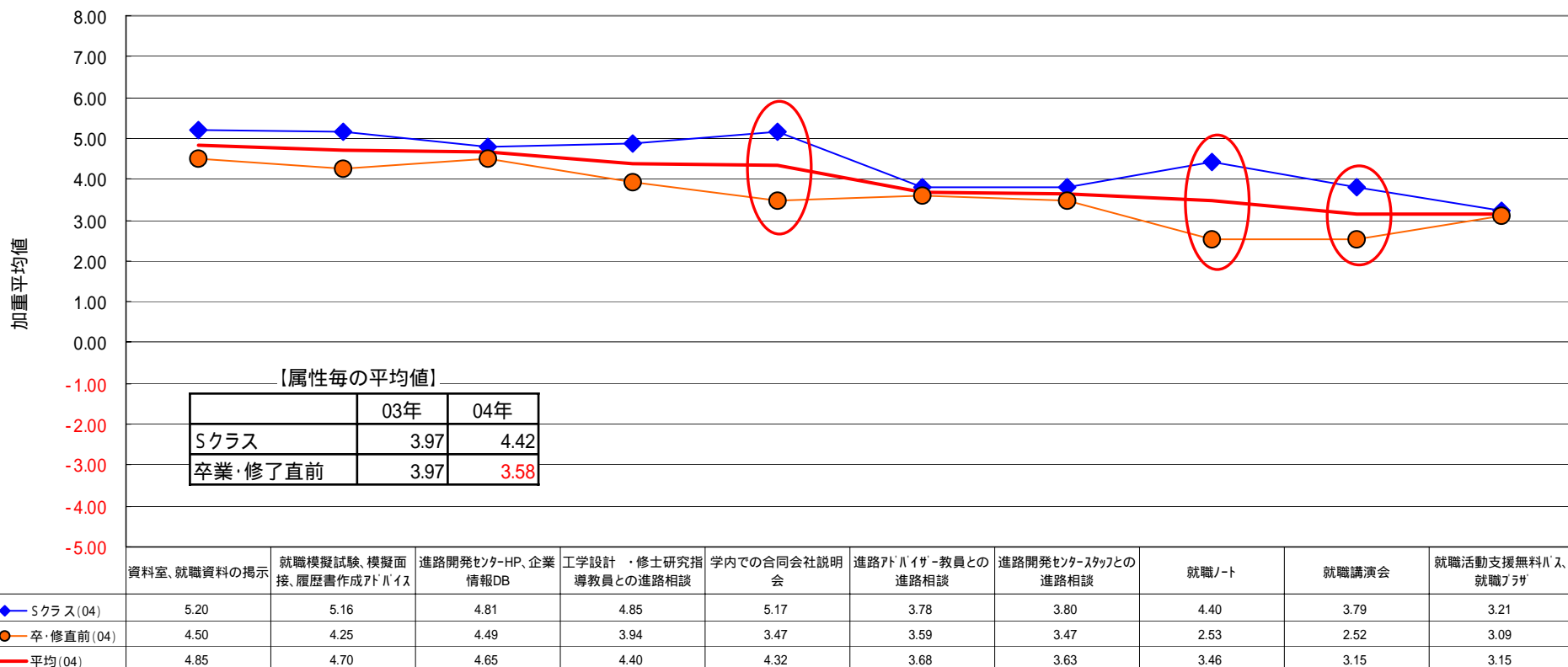


	キャンパス周辺の買い物での利便性	クラブ・サークル活動	通学の利便性	キャンパス周辺の飲食面での利便性	学内でのアルバイト	寮・アパートの快適性	キャンパス周辺の環境	学外でのアルバイト	日常生活の便(04:キャンパスの快適性)	工大祭
■ Jクラス(04)	3.61	3.12	2.85	3.11	3.16	2.66	2.44	2.27	1.69	1.31
● Cクラス(04)	3.15	2.55	2.57	2.49	2.52	2.24	1.91	1.11	0.72	0.55
◆ Sクラス(04)	3.77	3.39	2.97	2.71	2.39	1.70	1.81	1.73	0.19	0.81
● 卒・修了直前(04)	3.46	4.07	2.82	2.54	2.56	2.13	1.11	1.36	1.41	1.23
— 平均(04)	3.50	3.28	2.80	2.71	2.66	2.18	1.82	1.62	1.00	0.97

- 就職支援を受けているSクラスと卒業・修了直前に、その支援の満足度を聞いたところ、全ての項目で平均が3点以上と、比較的満足度は高いという結果であった。
- 最も満足度が高かったのは「資料室、就職資料の掲示」であり、次いで「就職模擬試験、模擬面接、履歴書作成アドバイス」「進路開発センターHP、企業情報DB」といった点であった。逆に満足度が低かったのは「就職活動支援無料バス、就職プラザ」「就職講演会」「就職ノート」などであった。
- Sクラスと卒業・修了直前の2つの属性だけの比較であるが、全般的に現役であるSクラスの評価の方が高かった。そして、就職支援が終了した卒業・修了直前の評価が低かった。これらより、就職支援を受け始めた頃は満足度が高いが、就職支援が終了した後から評価すると、以前のような満足度は得られなかったと厳しい評価をしているといえる。
- Sクラスと卒業・修了直前で特に差が大きかったのは「学内での合同会社説明会」「就職ノート」「就職講演会」などであった。説明会が2つ含まれていたが、後から考えると説明会は思ったほど満足できなかったという気持ちが表れたとも考えられる。

04年 就職支援に関する満足度 属性別比較

対象：「Sクラス」「卒業・修了直前」



02年は「高く評価できる」「まあ評価できる」「あまり評価できない」「評価できない」「知らない」の5択であったが、03年～04年は「満足」「まあ満足」「少し不満」「不満」の4択であるため、選択肢の数が異なる。
 グラフの色分けは下記の通りで、「知らない」と「不明」の数値は表示していない。

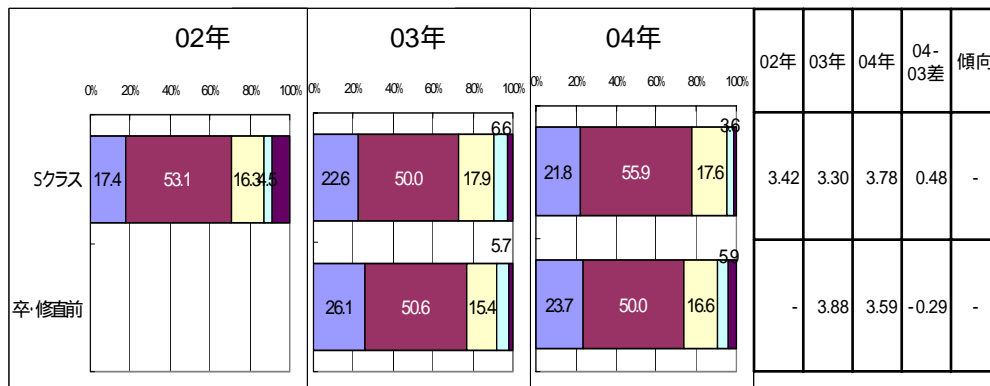
02年
 03年～04年

■ 高く評価できる	■ まあ評価できる	□ あまり評価できない	□ 評価できない	■ 知らない	■ 不明
■ 満足	■ まあ満足	□ 少し不満	□ 不満	■ 不明	

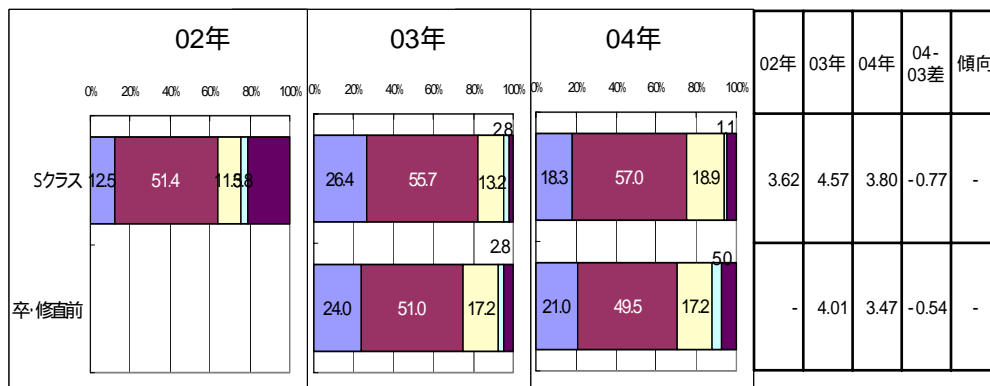
グラフの右にある数表は各クラスの加重平均を表しており、「差」は「04年」から「03年」のポイントを引いたものとなっている。

「傾向」の矢印は「差」を視覚的に表したものであり、04年の数値から03年の数値をマイナスしたものが、1より大きい場合は「↑」として昨年より評価が上がったことを示している。また、-1より小さい場合は「↓」として評価が下がったことを示している。
 加重平均は「満足(高く評価できる)」に+10点、「まあ満足(評価できる)」に+5点、「少し不満(あまり評価できない)」に-5点、「不満(評価できない)」に-10点の荷重をかけて回答数で除している。「知らない」には点数を与えていない。「不明」は回答者数に含めていない。

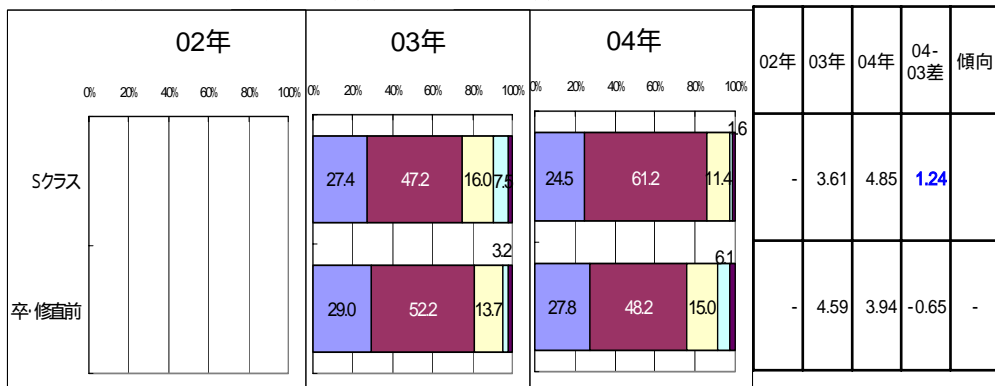
進路アドバイザー教員との進路相談



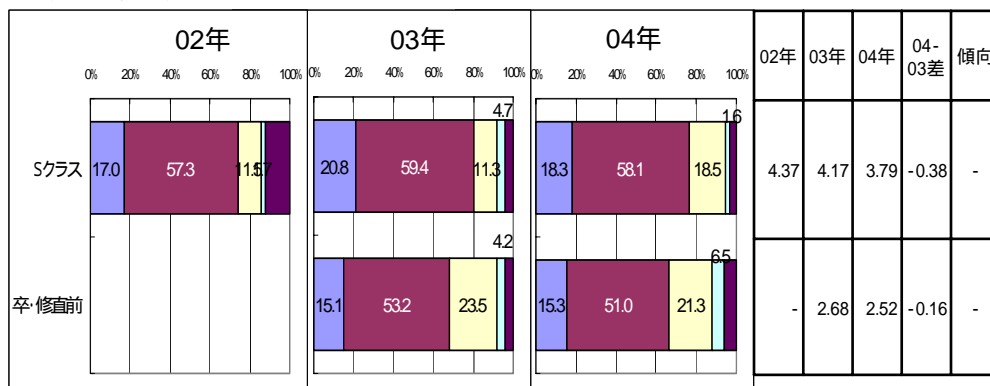
進路開発センタースタッフとの進路相談



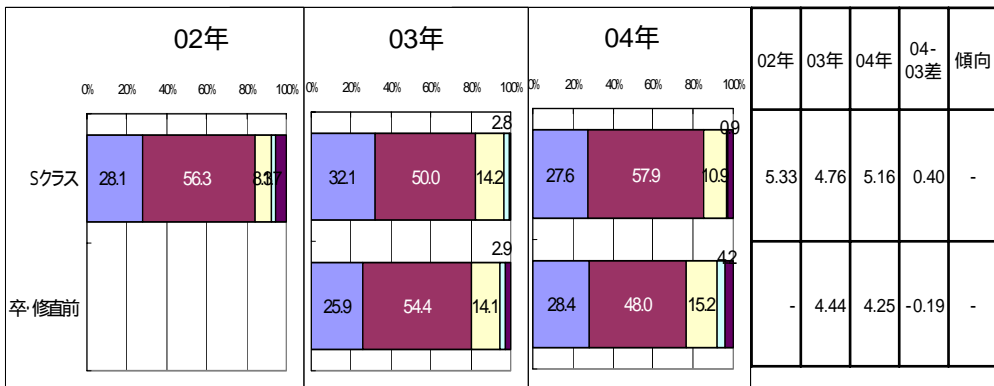
工学設計 ・ 修士研究指導教員との進路相談



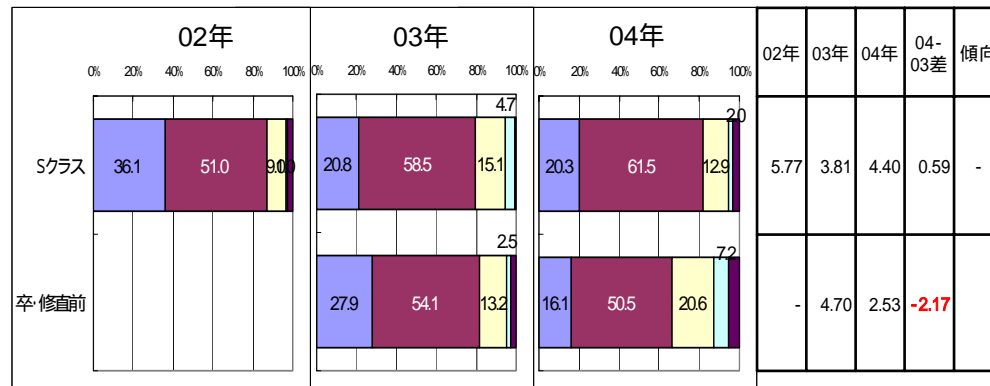
就職講演会



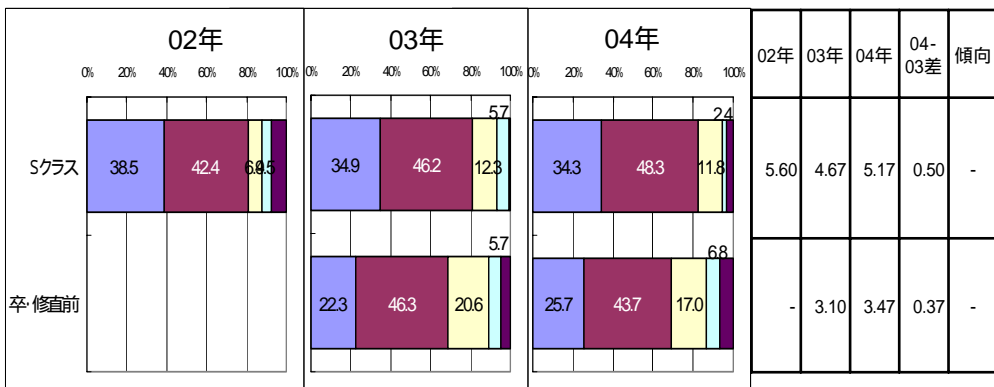
就職模擬試験、模擬面接、履歴書作成アドバイス



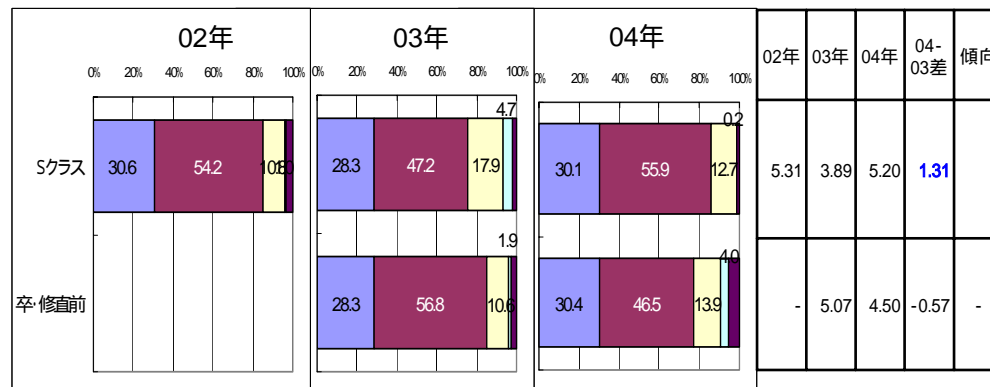
就職ノート



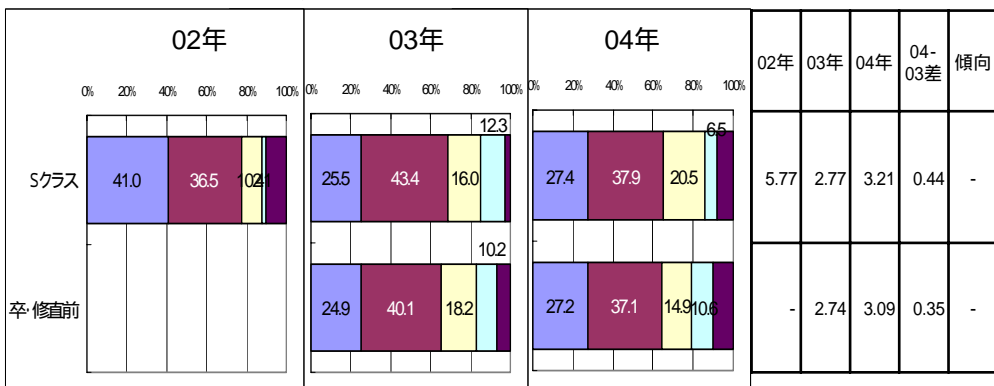
学内での合同会社説明会



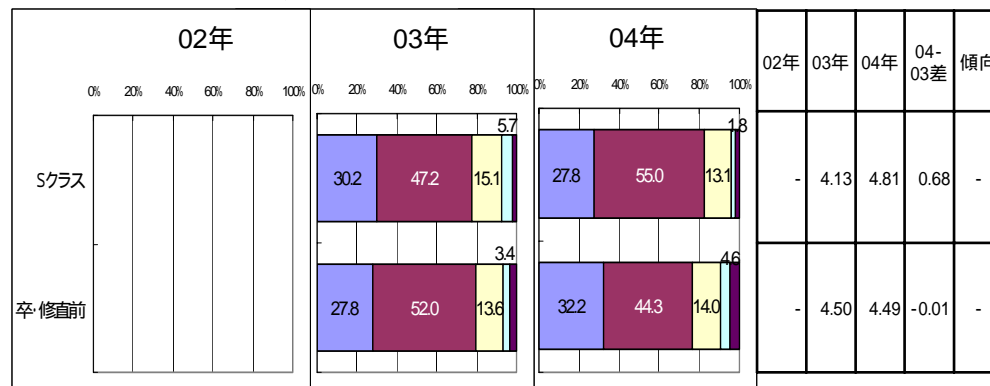
資料室、就職資料の掲示



就職活動支援無料バス、就職プラザ



進路開発センターHP、企業情報DB

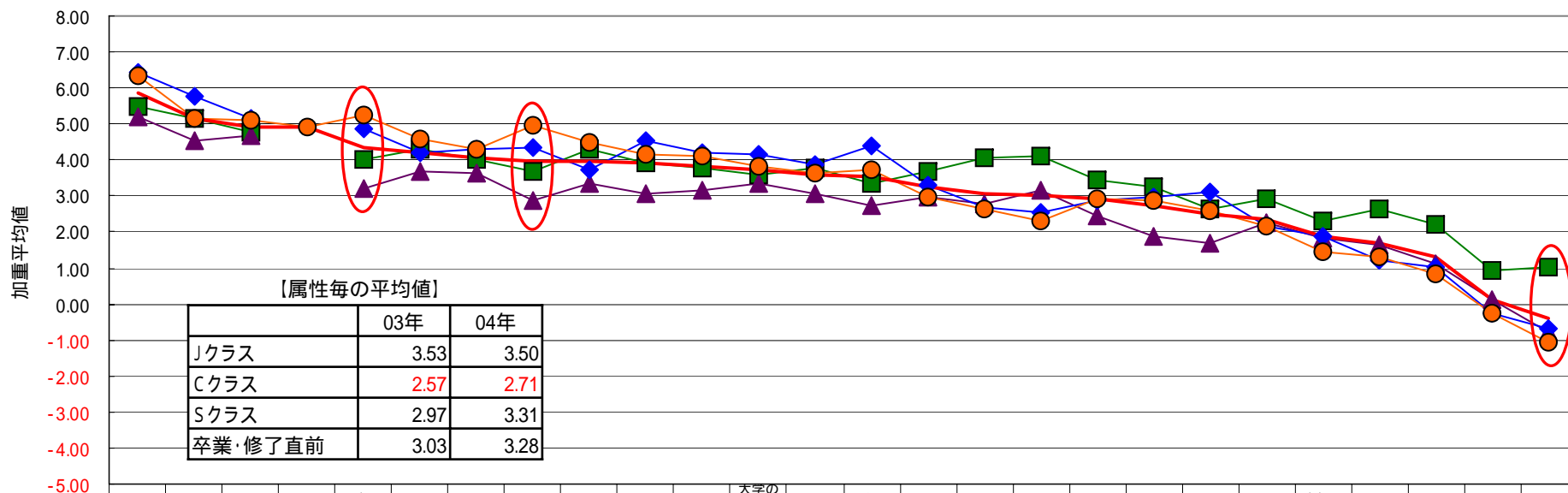


<7-1> サービスや機能(利用価値)に関する満足度

- 施設に関する満足度でマイナスとなったのは「穴水湾自然学苑」だけであり、他の施設は全てプラス評価であった。
- 最も評価が高かったのは「ライブラリーセンター」であり、次いで「ブックストア」「郵便局」「池の平セミナーハウス」「コンピュータ利用環境」といったものであった。
- 逆に評価が低かったのは「穴水湾自然学苑」「えふえむエヌ・ワン」「大学内の誘導表示」「寮・下宿相談室」「ポピュラーミュージックコレクション」といった施設であった。「穴水湾自然学苑」はJクラス以外は全てマイナス評価で、「えふえむエヌ・ワン」はSクラス、卒・修直前がマイナスであった。
- 属性によって差があったものの中で「コンピュータ利用環境」「ネットワーク利用環境」は同じようなカテゴリーであり、卒業・修了直前の評価が高く、Cクラスの評価が低いという傾向にあった。また、「穴水湾自然学苑」はJクラスの評価は高いものの、その他のクラスの評価が低く差がついていた。
- 属性毎の平均値を見ると昨年同様にCクラスが最も低い評価をしている。そして、Jクラスの評価が高めであった。ここには1年次生の評価はないが、入学後間もない段階では施設に関する評価も高いものの、Cクラスという学校に慣れた段階で施設の充実も当たり前のこととして捉え、評価も下がっているという傾向が考えられる。これらの評価の低下は一時的なものであり、Sクラス以降は元に戻っている。

04年 施設に関する満足度 属性別比較

対象:「Jクラス」「Cクラス」「Sクラス」「卒業・修了直前」



【属性毎の平均値】

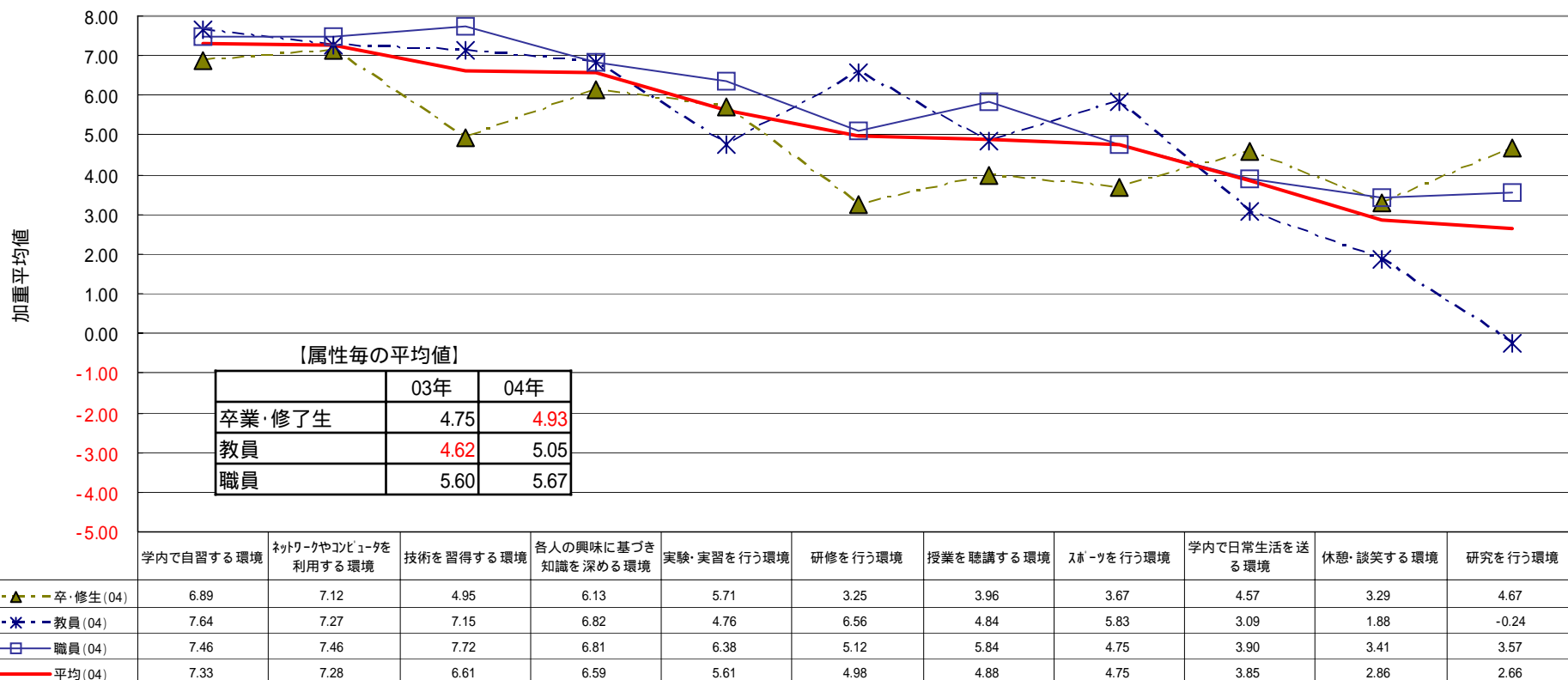
	03年	04年
Jクラス	3.53	3.50
Cクラス	2.57	2.71
Sクラス	2.97	3.31
卒業・修了直前	3.03	3.28

	ライブラリーセンター	ブックストア	郵便局	池の平セミナーハウス	コンピュータ利用環境	購買	学内イントラネット	ネットワーク利用環境	食堂	サービスセンター	実験・実習環境	大学の公式ホームページの内容	マルチメディア考房	研究室・研究設備	普通教室	自習室	パソコンセンター	診療所	スポーツ施設	夢考房	トイレや洗面所	ポピュラーミュージックコレクション	寮・下宿相談室	大学内の誘導表示	えふえむエヌ・ワン	穴水湾自然学苑
Jクラス(04)	5.48	5.15	4.80		4.01	4.31	4.02	3.70	4.32	3.94	3.76	3.60	3.76	3.34	3.67	4.08	4.11	3.47	3.25	2.66	2.91	2.30	2.62	2.20	0.95	1.00
Cクラス(04)	5.20	4.54	4.67		3.23	3.66	3.66	2.88	3.36	3.05	3.16	3.36	3.07	2.72	2.98	2.78	3.17	2.46	1.89	1.69	2.25	1.83	1.66	1.13	0.13	-0.77
Sクラス(04)	6.43	5.76	5.17		4.86	4.21	4.32	4.34	3.74	4.54	4.22	4.16	3.88	4.39	3.31	2.70	2.53	2.86	2.98	3.11	2.15	1.89	1.21	1.03	-0.25	-0.71
卒・修直前(04)	6.32	5.17	5.11	4.93	5.23	4.57	4.29	4.98	4.47	4.17	4.10	3.85	3.63	3.72	2.98	2.64	2.32	2.94	2.85	2.59	2.17	1.45	1.31	0.84	-0.27	-1.04
平均(04)	5.86	5.15	4.94	4.93	4.33	4.19	4.07	3.97	3.97	3.93	3.81	3.74	3.58	3.54	3.24	3.05	3.03	2.93	2.74	2.51	2.37	1.87	1.70	1.30	0.14	-0.38

- 現役の学生ではない層に大まかな機能・サービスの分野に関する満足度を聞いた。平均を見ると全ての項目がプラスのスコアであり、全体的に評価は良いといえる。
- まず、最も評価が高かったのは「学内で自習する環境」であり、平均で7.33点とかなり満足度が高いといえる。同様に「ネットワークやコンピュータを利用する環境」が7.28点、「技術を習得する環境」が6.61点、「各人の興味に基づき知識を深める環境」が6.59点と、学生自らが何か行動を起こすための環境は非常に高い満足度が得られていた。
- 逆に満足度が低かったものとして「研究を行う環境」が最も点数が低かったが、これは教員の評価が低かったためであり、教員は研究する環境に不満を持っていることが分かる。
- そして、「休憩・談笑する環境」「学内で日常生活を送る環境」「スポーツを行う環境」など、リラックスしたりリフレッシュしたりする環境についての満足度が低いことも分かった。
- 属性毎の平均値を見ると、職員の評価は昨年と同様に最も高かった。そして、今年は卒業・修了生の評価が最低という結果であった。

04年 機能・サービスの分野別満足度 属性別比較

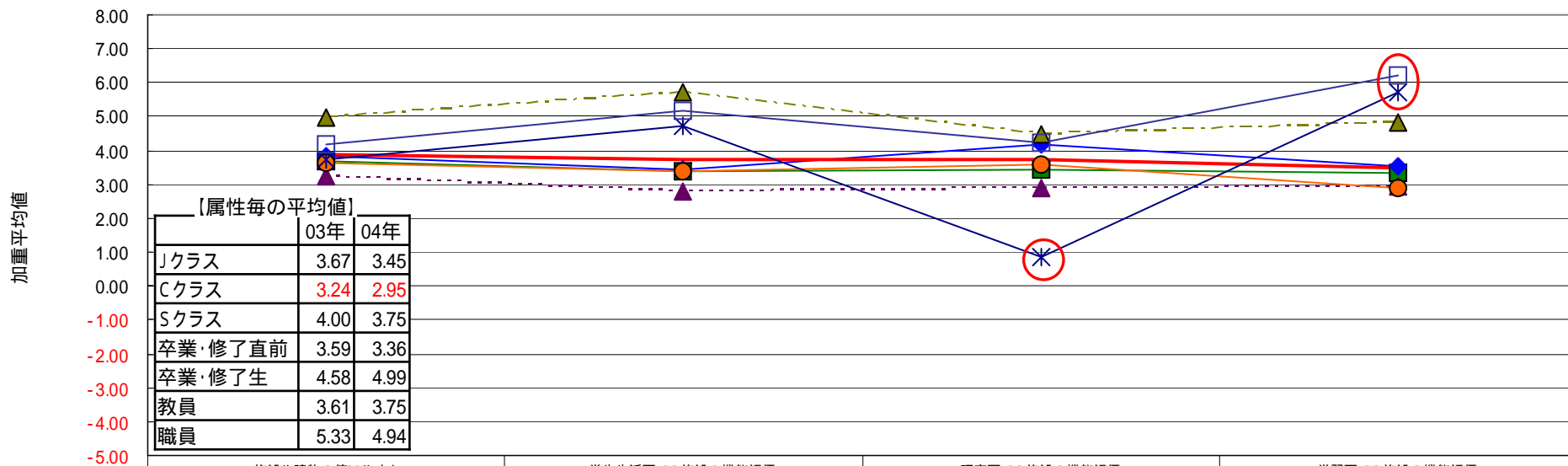
対象:「卒業・修了生」「教員」「職員」



- サービスや機能の総合的な評価を4項目聞いたが、項目間の差は少なく、ほぼ3点以上の高い評価が得られた。
- 「施設や建物の使いやすさ」は卒業・修了生の評価が高くCクラスの評価が低かったが、属性による差が少なく意見の一致が見られた。
- 「学生生活面での施設の機能評価」も、卒業・修了生の評価が高くCクラスの評価が低い傾向があった。また、教員、職員の評価は高かったものの、在学生はそれほど高くは評価していないことが分かる。
- 「研究面での施設の機能評価」は教員の評価が非常に低い点が特徴的であった。教員は研究面ではまだまだ十分でないと感じている。
- 「学習面での施設の機能評価」は教員と職員は非常に高く評価しており、卒業・修了生も高めの評価であったが、在学生の評価はそれほど高くなかった。
- 研究面は教員の評価が厳しかったので例外となるが、一般的に教職員と卒業・修了生の評価が高く、在学生の評価がそれほど高くない。特にCクラスの評価が低いといえる。
- 属性毎の平均値を見ると、昨年と同様にCクラスが最も低かった。評価が高かったのは職員から卒業・修了生に変わっていた。

04年 施設・機能・サービスに関する総合満足度 属性別比較

対象:「Jクラス」「Cクラス」「Sクラス」「卒業・修了直前」
「卒業・修了生」「教員」「職員」



	施設や建物の使いやすさ	学生生活面での施設の機能評価	研究面での施設の機能評価	学習面での施設の機能評価
■ Jクラス(04)	3.67	3.36	3.43	3.35
▲ Cクラス(04)	3.23	2.77	2.89	2.92
◆ Sクラス(04)	3.83	3.45	4.16	3.56
● 卒・修直前(04)	3.61	3.37	3.59	2.88
▲ 卒・修生(04)	4.95	5.71	4.48	4.81
— 学生平均(04)	3.86	3.73	3.71	3.50
* 教員(04)	3.71	4.73	0.85	5.71
□ 職員(04)	4.16	5.16	4.21	6.21

評価が『高かった』

「ライブラリーセンター」「ブックストア」「郵便局」などの評価が高く、学内で学習したりPCを使ったりする環境も整っている。

- 「ライブラリーセンター」「ブックストア」「郵便局」「池の平セミナーハウス」「コンピュータ利用環境」などの評価が高かった。そして、「Jクラスの評価が高くCクラスが低く、この傾向は昨年と変わらなかった。
- 卒業・修了生と教職員による分野別評価を見ると「自習する環境」「ネットワークやコンピュータを利用する環境」「技術を習得する環境」などの評価が高かった。属性別には職員の評価が高かった。

評価が『低かった』

学習するためのものの評価は低く、学生生活を過ごすための施設や環境に低い傾向が見られ、今後の課題になると思われる。

- 全般的に評価が高く、マイナス評価だったのは「穴水湾自然学苑」だけであり、他に「えふえむエヌ・ワン」「誘導表示」「寮・下宿相談室」の評価が低かった。
- 分野別評価ではマイナス評価のものはなかったが、「研究を行う環境」「休憩・談笑する環境」「学内で日常生活を送る環境」などの評価が低めであった。



昨年より評価が『上がった』

「穴水湾自然学苑」「研究環境」「日常生活を送る環境」など、相対評価は低いものの昨年より改善されたものが多く見られた。

- 相対的な評価は低いものの「穴水湾自然学苑」の評価は昨年と比較して大きく評価を上げていた。同様に、それほど評価の高くない「自習室」の評価も良くなっていた。
- 分野別評価では「研究を行う環境」「日常生活を送る環境」「休憩・談笑する環境」は昨年より評価を上げており、相対的な評価は低いものの改善されていることが想像できる。

昨年より評価が『下がった』

「池の平」「サービスセンター」「PMC」などの施設が評価を落とし、最も重要な「授業を聴講する環境」の評価が僅かに下がっていた。

- 施設の半数は昨年より評価を下げていたが、最も下がっていたのは「池の平セミナーハウス」であった。相対的な評価は高いものの課題があるものと思われる。
- また、「サービスセンター」「PMC」「えふえむエヌ・ワン」なども評価を下けている。
- 分野別評価では「授業を聴講する環境」「知識を深める環境」「研修を行う環境」など、非常に重要なものが昨年より評価を落とす結果となっていた。



サービスや機能の総合的な評価

現在の施設の機能に対する評価は決して低くはないが、僅かに昨年より評価を落としている。これには老朽化などの要因が考えられる。

- 「学生生活面」「研究面」「学習面」での施設の機能の評価はいずれも高く、大きな問題は見られなかった。ただし、教員は研究面での施設機能は十分ではないと考えている。
- 昨年との比較で見ると、「学生生活面」での施設の使いやすさは昨年より少し評価を上げているが、「研究面」「学習面」では昨年よりも僅かずつ評価を落としていた。

その他、サービスや機能項目の評価で特筆すべき点

属性によって評価の軸が異なるが、施設の評価はJクラスが高くCクラスが低い傾向がある。

- 施設の評価は在学生ではJクラスの評価が良くCクラスが悪いという傾向が見られる。また、学生以外では職員の評価が良く、次いで教員、卒業・修了生という順になっている。
- また、教員は研究するための施設の評価が低いなど、属性によって評価の視点が異なることが確認できた。

総合満足度に関する相関分析

- KITで過ごしていく中で、「目標を持っている」「将来像が具体的に変わった」「後輩に勧めたい」「自慢できる」「建学の精神に共感できる」「満足している」「KITが好きである」の7つの切り口は、全てが0.500以上の相関関係を持っているため0.600以上のみを抽出して分析した。
- まず、1つの学生像として挙げられるのが「目標を持っている学生は将来像が具体的に感じている」ということが確認できる。
- また、KITに満足している学生とKITが好きだと感じている学生は非常によく一致しているといえる。
- そして、KITに満足して好きだと感じている学生は、建学の精神に共感してKITの学生であることを自慢に感じており、後輩に勧めたいと感じているということが分かった。
- 関係性がないわけではないが、目標を持って将来像が具体的に感じている学生の満足度が高いというわけではなかった。

		KITで目標を持って過ごすことができる	KITで自分の将来像が具体的に変わった	KITを後輩にも勧めたいと思う	KITの学生・教職員であることを自慢できる	KITの建学の精神に共感できる	今のKITに満足している	KITが好き
KITで目標を持って過ごすことができる	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	1 .000 4675	.616* .000 4671	.549* .000 4652	.484* .000 4652	.524* .000 4653	.533* .000 3075	.566* .000 4659
KITで自分の将来像が具体的に変わった	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.616* .000 4671	1 .000 4676	.508* .000 4656	.483* .000 4655	.477* .000 4656	.496* .000 3074	.487* .000 4660
KITを後輩にも勧めたいと思う	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.549* .000 4652	.508* .000 4656	1 .000 4657	.693* .000 4646	.563* .000 4640	.651* .000 3062	.648* .000 4647
KITの学生・教職員であることを自慢できる	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.484* .000 4652	.483* .000 4655	.693* .000 4646	1 .000 4657	.555* .000 4643	.647* .000 3064	.641* .000 4645
KITの建学の精神に共感できる	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.524* .000 4653	.477* .000 4656	.563* .000 4640	.555* .000 4643	1 .000 4659	.606* .000 3064	.590* .000 4646
今のKITに満足している	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.533* .000 3075	.496* .000 3074	.651* .000 3062	.647* .000 3064	.606* .000 3064	1 .000 3077	.714* .000 3068
KITが好き	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.566* .000 4659	.487* .000 4660	.648* .000 4647	.641* .000 4645	.590* .000 4646	.714* .000 3068	1 .000 4664

相関分析は在学生と卒業生のデータだけを対象に分析している。以下の分析も同様。
相関係数の考え方に関しては次項参照。

一般的に0.500以上で相関関係があるとされるが、ここでは互いに強い相関関係があるため0.600以上の関係を読みとっている。

資料) 相関係数に関して

- 相関係数とは「そう思う」～「そう思わない」のように段階的に評価できる設問間の関係性を示したものであり、片方の評価と他方の評価の関係を見ることができる。
- 右上の点線内は左下と同じ数値となっている。
- 相関係数が1であれば完全に右肩上がりの比例関係にあることを示し、相関係数が少なくなるほど比例関係が弱いといえる。
- 通常は $0.500 < \text{相関係数} < 1.000$ であれば、強い正の相関関係があるといえるが、ここでは0.600を基準として1重の円で囲み、相関が強い0.700以上のものを2重の円で囲んでいる。この設定は質問によって変えている場合もある。
- 相関係数の見方
 - 前項の例では、左片の「KITで目標を持って過ごすことができている」の「(Pearsonの)相関係数」のスコアを右に向かって見ると、「KITで自分の将来像が具体的になった」が0.616で強い正の相関関係があり、「KITを後輩にも勧めたい」「KITの建学の精神に共感できる」「今のKITに満足している」「KITが好き」が0.5台で正の相関関係があるといえる。
 - これより「KITで目標を持って過ごすことができている」と感じている学生は「自分の将来像が具体的になり、建学の精神に共感でき、KITが好きで満足度も高く、後輩にも勧めたいと感じている。しかし、それほど強く自慢に感じているわけではないといえる。
 - このように、数値が大きなものをトータルで考えていくことで回答者の気持ちや実態を考えていくのが相関係数による分析となる。

各分野別の満足度に関する相関分析

- 「授業」「学習環境・学習支援」「学習面以外の大学生活」「就職支援」「施設や建物」といった分野別の満足度と「KITに対する総合的な満足度」を聞いたところ、下記のように関係性になった。
- まず、「授業」に満足している学生は「学習環境・学習支援」の満足度も高く、KITに対する「総合的な満足度」も高いという傾向が確認できた。
- また、「学習面以外の大学生活」に満足している学生も、KITに対する「総合的な満足度」が高いことが分かった。
- このように、「授業自体の中身と学習をサポートする仕組みを求めている学生がおり、それらの内容に満足している学生はKITに対する総合的な満足度も高い」といえる。他に「学習面以外の大学生活を大事にしている学生もおり、大学生活の満足度が高ければKITに対する総合的な満足度も高い」という関係性が分かった。
- この数字を見る限り、「就職支援」「施設や建物」は他の項目との関係性が薄く、総合満足度への影響も少ないことが分かった。

		総合的に見て、授業には満足している	総合的に見て学習環境や学習支援は満足している	総合的に見た学習面以外の大学生活の満足度	総合的に見て、就職支援は十分なレベルだと思う	総合的に見た施設や建物の使いやすさ	今のKITに満足している
総合的に見て、授業には満足している	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	1 .000 3229	.529* .000 3182	.433* .000 3182	.322* .000 1418	.382* .000 3151	.505* .000 3066
総合的に見て学習環境や学習支援は満足している	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.529* .000 3182	1 .000 3188	.463* .000 3152	.400* .000 1407	.452* .000 3120	.475* .000 3032
総合的に見た学習面以外の大学生活の満足度	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.433* .000 3182	.463* .000 3152	1 .000 3191	.324* .000 1418	.454* .000 3140	.508* .000 3046
総合的に見て、就職支援は十分なレベルだと思う	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.322* .000 1418	.400* .000 1407	.324* .000 1418	1 .000 1423	.371* .000 1412	.315* .000 1366
総合的に見た施設や建物の使いやすさ	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.382* .000 3151	.452* .000 3120	.454* .000 3140	.371* .000 1412	1 .000 3160	.427* .000 3033
今のKITに満足している	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.505* .000 3066	.475* .000 3032	.508* .000 3046	.315* .000 1366	.427* .000 3033	1 .000 3077

ここでは0.500以上の関係を読みとっている。

個別の授業の満足度に関する相関分析

- 個別の授業の満足度同士がどのような関係性を持っているかを見たが、比較的關係性が薄いので0.400以上を対象とした。
- まず、授業同士の関係性を見ると、「工学基礎実験」の満足度が高い学生は「工学専門実験、演習」「専門基礎科目」「工学設計」、「」の満足度が高かった。また、「工学専門実験、演習」「専門基礎科目」「専門コア科目」の満足度にも相関関係があった。これらを見ると専門科目の授業に関する満足度に相関関係があることが分かる。
- 「授業の総合的満足度」の関係を見ると、「工学基礎科目」「専門コア科目」が相関関係にあることが分かる。また、上記で挙がっていた専門科目と「授業の総合的満足度」の関係性も強く、専門科目の満足度が授業全体の満足度に大きく影響しているといえる。
- また、「工学設計」、「修士研究」と「コアゼミ」に相関関係があり、「フレッシュマンなどの各種セミナー」「進路セミナー」「人間と自然」のセミナー関連の満足度にも相関関係が見られた。

		工学基礎科目	外国語科目	人間と文化、社会、科学	生涯学習	工学基礎実験	工学専門実験、演習	専門基礎科目	専門コア科目	製図、設計演習	コンピュータ演習	工学設計	コアゼミ	工学設計、修士研究	フレッシュマン、ジュニア、自己啓発セミナー	進路セミナー	人間と自然	総合的に見て、授業には満足している	今のKITに満足している
工学基礎科目	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	1 3111	.330 3101	.284 3099	.250 3091	.334 3103	.244 1334	.389 2104	.272 1339	.238 3096	.237 3098	.229 3096	.220 1246	.180 1313	.307 3104	.224 1337	.200 3108	.408*	.306*
外国語科目	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.330 3101	1 3110	.273 3098	.216 3092	.215 3103	.141 1334	.196 2105	.185 1339	.222 3097	.212 3098	.252 3096	.183 1247	.162 1313	.252 3104	.225 1337	.193 3109	.258*	.215*
人間と文化、社会、科学	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.284 3099	.273 3098	1 3108	.270 3086	.286 3098	.191 1334	.221 2101	.198 1339	.223 3093	.238 3093	.297 3093	.180 1245	.117 1313	.351 3099	.207 1337	.279 3105	.313*	.250*
生涯学習	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.250 3091	.216 3092	.273 3098	1 3086	.299 3093	.252 3093	.215 2097	.215 1334	.238 3087	.232 3087	.266 3085	.245 1242	.183 1308	.285 3094	.193 1332	.292 3098	.233*	.201*
工学基礎実験	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.334 3103	.215 3103	.286 3098	.298 3093	1 3111	.507*	.464*	.291 1335	.391 2106	.275 1339	.483*	.259 1247	.236 1313	.367 3105	.218 1337	.316 3109	.583*	.314*
工学専門実験、演習	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.244 1334	.141 1334	.191 1334	.247 1329	.507 1335	1 1338	.432*	.436*	.273 1330	.192 1328	.390 1330	.262 1242	.327 1310	.270 1333	.220 1336	.250 1340	.371*	.296*
専門基礎科目	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.389 2104	.196 2105	.221 2101	.252 2097	.464 2106	.432 1333	1 1337	.334 1337	.351 1333	.351 1333	.329 1245	.316 1311	.316 2103	.342 1335	.228 2107	.246 2107	.379*	.291*
専門コア科目	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.272 1339	.185 1339	.198 1339	.215 1334	.291 1339	.436 1337	.618*	1 1343	.296 1335	.274 1333	.272 1247	.315 1247	.341 1315	.282 1338	.272 1339	.212 1341	.406*	.274*
製図、設計演習	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.238 3096	.222 3097	.223 3093	.223 3067	.391 3100	.334 1330	.223 2101	.296 1335	1 3105	.360 3094	.306 3090	.163 1243	.181 1310	.320 1309	.174 1222	.298 1336	.344*	.235*
コンピュータ演習	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.237 3098	.212 3098	.238 3093	.232 3087	.275 3100	.192 1328	.351 2097	.274 1333	.360 3094	1 3106	.306 3092	.163 1241	.189 1308	.263 3100	.219 1331	.203 3104	.292*	.203*
工学設計、	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.229 3096	.223 3096	.297 3093	.266 3085	.483 3097	.390 1330	.361 2098	.272 1335	.379 3090	.306 3092	1 3105	.320 1243	.316 1988	.382 3097	.240 1334	.359 3102	.361*	.277*
コアゼミ	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.220 1246	.183 1247	.180 1245	.245 1242	.259 1247	.262 1242	.329 1245	.315 1243	.181 1243	.163 1241	.320 1243	1 1249	.534*	.331 1246	.281 1245	.211 1248	.292*	.259*
工学設計、修士研究	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.180 1313	.162 1313	.117 1313	.183 1308	.236 1313	.327 1310	.316 1311	.341 1315	.174 1310	.189 1308	.316 1309	.534 1222	1 1317	.199 1312	.172 1336	.195 1341	.319*	.267*
フレッシュマン、ジュニア、自己啓発セミナー	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.307 3104	.252 3104	.351 3099	.285 3094	.367 3105	.270 1333	.342 2103	.282 1338	.300 3099	.263 3100	.382 3097	.331 1246	.199 1312	1 3112	.504*	.427*	.266*	.266*
進路セミナー	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.224 1337	.185 1337	.207 1337	.193 1332	.218 1337	.220 1334	.228 1335	.272 1339	.177 1331	.219 1334	.240 1245	.281 1313	.172 1336	.504 1341	1 1339	.344 1338	.352*	.260*
人間と自然	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.200 3108	.193 3109	.279 3105	.292 3098	.316 3109	.250 1336	.212 2107	.298 1341	.203 3103	.359 3104	.211 3102	.195 1248	.427 1315	.344 3110	1 1339	.305 3118	.273*	.233*
総合的に見て、授業には満足している	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.408 3105	.258 3104	.313 3102	.233 3093	.383 3105	.371 1335	.379 2104	.406 1340	.344 3099	.292 3100	.361 3099	.292 1246	.319 1314	.344 3106	.352 3112	.305 3112	1	.505*
今のKITに満足している	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	.306 2951	.215 2953	.250 2950	.203 2940	.314 2951	.296 1280	.291 2007	.274 1285	.235 2945	.203 2947	.277 2947	.259 1192	.267 1259	.266 2952	.260 1284	.273 2959	.505*	.307*

授業の進め方の満足度に関する相関分析

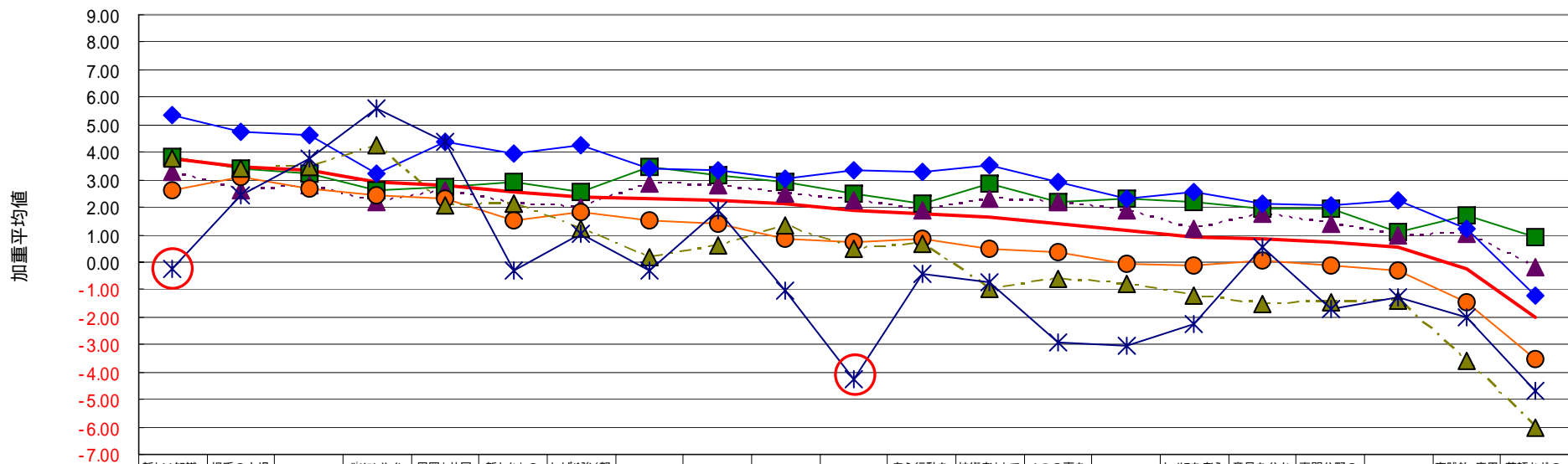
- まず、「分かりやすい授業が受けられる」「授業を通じて勉学意欲、向学心がわく」「新しい分野、新しいテーマの勉強ができる」「自分の好きな・興味の持てる勉強ができる」の4項目の相関関係が強かった。そして、これらの項目と「授業の総合的満足度」との相関も強かった。個々で挙げられた項目は授業のテクニックではなく中身に関する事柄であり、授業に興味を持たせて分かりやすく向学心を持てるように進めることが授業に対する満足度を上げることにつながる事が分かる。
- また、「専門的な知識が身につく」「実験・実習のテーマや内容が豊富である」「実社会での応用など学んだことの広がりが分かる」と、専門的で社会の中での学問の位置づけが分かるような要望があり、これも授業の満足度を向上させる要因となっている。
- 全体的に見て「AV機器などを用いた授業」「少人数形式のゼミ」のような授業の進め方といった点は、授業全体の満足度とはあまり関係性が強くないといえる。

0.500以上を円で囲んでいる。	分かりやすい授業が受けられる	新しい分野、新しいテーマの勉強ができる	自分の好きな・興味のもてる勉強ができる	授業を通じて勉学意欲、向学心がわく	AV機器などを用いた授業が受けられる	少人数・ゼミ形式の授業が受けられる	専門的な知識が身につく	実験・実習のテーマや内容が豊富である	実社会での応用など学んだことの広がりが分かる	総合的に見て、授業には満足している	今のKITに満足している	
分かりやすい授業が受けられる	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.386* .000 3225	.438* .000 3221	.518* .000 3217	.299* .000 3217	.354* .000 3214	.356* .000 3219	.367* .000 3217	.407* .000 3216	.574* .000 3222	.427* .000 3063	
新しい分野、新しいテーマの勉強ができる	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.386* .000 3224	1 .000 3230	.502* .000 3226	.441* .000 3222	.305* .000 3220	.340* .000 3224	.456* .000 3222	.414* .000 3221	.396* .000 3227	.462* .000 3068	
自分の好きな・興味のもてる勉強ができる	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.438* .000 3221	.502* .000 3226	1 .000 3227	.575* .000 3219	.294* .000 3219	.346* .000 3217	.432* .000 3221	.407* .000 3219	.418* .000 3218	.531* .000 3066	
授業を通じて勉学意欲、向学心がわく	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.518* .000 3217	.441* .000 3222	.575* .000 3219	1 .000 3224	.305* .000 3218	.371* .000 3213	.412* .000 3218	.380* .000 3216	.485* .000 3215	.595* .000 3221	.408* .000 3061
AV機器などを用いた授業が受けられる	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.299* .000 3217	.305* .000 3222	.294* .000 3219	.305* .000 3218	1 .000 3224	.374* .000 3216	.287* .000 3218	.304* .000 3216	.308* .000 3215	.354* .000 3221	.253* .000 3061
少人数・ゼミ形式の授業が受けられる	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.354* .000 3214	.340* .000 3220	.346* .000 3217	.371* .000 3213	.374* .000 3216	1 .000 3221	.384* .000 3215	.354* .000 3213	.392* .000 3212	.402* .000 3218	.297* .000 3060
専門的な知識が身につく	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.356* .000 3219	.456* .000 3224	.432* .000 3221	.412* .000 3218	.287* .000 3218	.384* .000 3215	1 .000 3226	.508* .000 3218	.464* .000 3217	.484* .000 3223	.333* .000 3063
実験・実習のテーマや内容が豊富である	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.367* .000 3217	.414* .000 3222	.407* .000 3219	.380* .000 3216	.304* .000 3216	.354* .000 3213	.508* .000 3218	1 .000 3225	.502* .000 3218	.490* .000 3222	.342* .000 3062
実社会での応用など学んだことの広がりが分かる	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.407* .000 3216	.396* .000 3221	.418* .000 3218	.485* .000 3215	.308* .000 3215	.392* .000 3212	.464* .000 3217	.502* .000 3218	1 .000 3223	.588* .000 3222	.392* .000 3061
総合的に見て、授業には満足している	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.574* .000 3222	.462* .000 3227	.531* .000 3224	.595* .000 3221	.354* .000 3221	.402* .000 3218	.484* .000 3223	.490* .000 3222	.588* .000 3222	1 .000 3229	.505* .000 3066
今のKITに満足している	Pearson の相関係数 有意確率 (両側) N	.427* .000 3063	.329* .000 3068	.382* .000 3066	.408* .000 3061	.253* .000 3061	.297* .000 3060	.333* .000 3063	.342* .000 3062	.392* .000 3061	.505* .000 3066	1 .000 3077

- 前項と同じ項目で自分自身の能力の自己診断を聞いた。教員には「卒業時点での学生の能力」という観点で聞いている。
- まず、全体を見て目立ったのは教員の意見が学生の意見とは大きく食い違っているという点であった。「パソコンやインターネットの活用能力」は学生の自己診断よりも高スコアであったが、多くの項目で低い評価であり、教員はKITの学生の能力を非常に厳しく見ていることが分かる。特に「知的好奇心」「理論的な思考能力」などの評価は厳しかった。
- 学生の自己能力の評価に関しては、Sクラスが最も高く自分を評価しており、次いでCクラス、Bクラスが同程度であり、卒業・修了直前と続き、卒業・修了生が最も厳しく自己評価していた。卒業・修了直前と卒業・修了生は就職試験を経験しているため、客観的に厳しく自分を見ることができるので評価が低く、その直前にあって自信に満ちているのがSクラスであるという構図であると思われる。
- 学生の平均で見ると、「知的好奇心」のスコアが最も高く、「思いやりの心」「誠実さ」「パソコンやインターネットの活用能力」「コミュニケーション能力」などの能力は比較的高いと自己診断している。一方、「国際コミュニケーション能力」「実践的、応用的な知識や技術」「リーダーシップ能力」「専門分野の知識や技術」「意見を分かりやすくまとめ表現できる能力」などが劣っていると感じていた。

04年 自分自身の能力 属性別比較

対象:「Jクラス」「Cクラス」「Sクラス」「卒業・修了直前」「卒業・修了生」「教員」



	新しい知識・技術への知的好奇心	相手の立場になれる思いやりの心	周囲に対する誠実さ	パソコンやインターネットの活用能力	周囲と共同、共創するコミュニケーション力	新たなものに挑戦する活力	ねばり強く努力を続ける勤勉さ	基本的な常識	情報の収集能力	情報の整理分析能力	理論的な思考能力	自ら行動を起こせる自律性	技術者としての責任を自覚する能力	1つの事を様々な視点で捉える力	仮説の構築能力	キャリアを考え自己実現を目指す姿勢	意見を分かりやすくまとめ表す力	専門分野の基礎的な知識や技術	リーダーシップ能力	実践的・応用的な知識や技術	英語などの国際的なコミュニケーション能力
■ Jクラス(04)	3.85	3.41	3.23	2.59	2.75	2.93	2.53	3.46	3.14	2.89	2.48	2.13	2.84	2.21	2.34	2.21	1.95	1.95	1.09	1.69	0.88
▲ Cクラス(04)	3.30	2.59	2.78	2.17	2.63	2.12	1.99	2.84	2.77	2.51	2.23	1.86	2.29	2.19	1.87	1.21	1.74	1.37	0.94	1.03	-0.18
◆ Sクラス(04)	5.36	4.74	4.63	3.22	4.37	3.98	4.24	3.43	3.35	3.06	3.34	3.27	3.50	2.94	2.32	2.57	2.10	2.04	2.22	1.19	-1.22
● 卒・修了直前(04)	2.58	3.09	2.68	2.44	2.31	1.53	1.82	1.55	1.42	0.82	0.76	0.87	0.51	0.37	-0.04	-0.10	0.03	-0.14	-0.29	-1.44	-3.54
▲ 卒・修了生(04)	3.76	3.38	3.46	4.28	2.05	2.10	1.24	0.19	0.62	1.33	0.48	0.67	-1.00	-0.62	-0.81	-1.24	-1.52	-1.44	-1.38	-3.57	-6.05
● 学生平均(04)	3.77	3.44	3.36	2.94	2.82	2.53	2.36	2.29	2.26	2.12	1.86	1.76	1.63	1.42	1.13	0.93	0.86	0.75	0.52	-0.22	-2.02
◆ 教員(04)	-0.25	2.42	3.79	5.58	4.37	-0.29	1.01	-0.29	1.88	-1.01	-4.25	-0.42	-0.71	-2.94	-3.07	-2.25	0.54	-1.72	-1.29	-2.00	-4.71

平成16年度
継続的な改善活動のために!
在学生・卒業生・教職員
KIT総合アンケート調査結果[報告書(抜粋)]

発行日	平成16年8月20日
発行者	学校法人 金沢工業大学
調査票設計・分析	(有)アイ・ポイント
編集	教育点検評価委員会・CS室

無断複製厳禁